

令和4年第1回嬉野市議会定例会会議録

招 集 年 月 日	令和4年3月1日					
招 集 場 所	嬉野市議会議場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開議	令和4年3月17日 午前9時30分			議 長 辻 浩 一	
	散会	令和4年3月17日 午後3時36分			議 長 辻 浩 一	
応（不応）招 議員及び出席 並びに欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠	議席 番号	氏 名	出欠
	1番	水 山 洋 輔	出	9番	宮 崎 良 平	出
	2番	大 串 友 則	出	10番	川 内 聖 二	出
	3番	古 川 英 子	出	11番	増 田 朝 子	出
	4番	阿 部 愛 子	出	12番	森 田 明 彦	出
	5番	山 口 卓 也	出	13番	芦 塚 典 子	出
	6番	諸 上 栄 大	出	14番	田 中 政 司	出
	7番	諸 井 義 人	出	15番	梶 原 睦 也	出
	8番	山 口 虎 太 郎	出	16番	辻 浩 一	出

地方自治法 第121条の規定 により説明の ため議会に出席 した者の職氏名	市長	村上 大 祐	健康づくり課長	津山 光 朗
	副市長	池田 英 信	統括保健師	佐熊 朋 子
	教育長	杉崎 士 郎	子育て未来課長	牧瀬 玲 子
	行政経営部長	永江 松 吾	福祉課長	
	総合戦略推進部長	三根 竹 久	農業政策課長兼 農業委員会事務局長	井上 章
	市民福祉部長	筒井 八重美	茶業振興課長	森 尚 広
	産業振興部長	中村 はるみ	観光商工課長	福田 正文
	建設部長	井上 元 昭	農林整備課長	馬場 敏 和
	教育部長	大久保 敏 郎	建設課長	馬場 孝 宏
	観光戦略統括監	近藤 光 則	新幹線・まちづくり課長	松尾 憲 造
	総務・防災課長兼 選挙管理委員会事務局長	太田 長 寿	環境下水道課長	植松 英 樹
	財政課長	山口 貴 行	教育総務課長	武藤 清 子
	税務課長		学校教育課長	中野 宗 利
	企画政策課長	小池 和 彦	会計管理者兼 会計課長	
	広報・広聴課長		監査委員事務局長	
	文化・スポーツ振興課長	小笠原 啓 介	代表監査委員	
	市民課長			
本会議に職務 のため出席した 者の職氏名	議会事務局長	白石 伸 之		

令和4年第1回嬉野市議会定例会議事日程

令和4年3月17日（木）

本会議第8日目

午前9時30分 開議

日程第1 一般質問

順次	通告者	質問の事項
1	大串友則	1. 市長の市政運営について 2. 庁舎のあり方について 3. 防災対策について
2	田中政司	1. 市政運営全般について 2. 農業政策について
3	阿部愛子	1. 吉田公民館へのエレベーター設置について 2. 環境行政について 3. 学校給食費の無償化について
4	梶原睦也	1. 嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について 2. ごみ処理について 3. 通学路の安全確保について
5	宮崎良平	1. 市長の公約について 2. 西九州新幹線について 3. 昨年の豪雨災害について

午前9時30分 開議

○議長（辻 浩一君）

皆さんおはようございます。

本日は全員出席であります。本日、報道機関より写真撮影と録音の要請があつておりまして、許可しております。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

日程第1. 一般質問を行います。

通告順に発言を許可いたします。

議席番号2番、大串友則議員の発言を許可いたします。大串友則議員。

○2番（大串友則君）

皆様おはようございます。議席番号2番、大串友則でございます。傍聴者の皆様におかれ

ましては、早朝よりの傍聴、誠にありがとうございます。

それでは、ただいま議長のお許しをいただきましたので、通告書に従い、一般質問いたします。

私は去る1月23日に実施されました嬉野市議会議員選挙におきまして、市民の皆様の温かい御支援により当選させていただきました。1票を投じていただいた市民の皆様に深く感謝すると同時に、皆様の思いを重く受け止め、市政に市民の声が届くよう、嬉野市の発展に尽力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

さて、連日連夜の報道により皆様も御存じのように、ロシア連邦・プーチン政権によるウクライナ侵攻は力による一方的な現状変更の試みであり、国際秩序の根幹を揺るがす行為であります。これは明白な国連憲章と国際法違反であり、断じて許すことはできません。ウクライナの無辜の民の生命及び財産、自由が失われていることに深い悲しみと強い怒りを覚えてなりません。一刻も早くウクライナ国民に安心・安全な日々が取り戻されることを切に願うばかりです。

前置きが少し長くなりましたが、私の質問では大きく3つに分けて質問いたします。

1点目は市長の市政運営について、2点目は庁舎のあり方について、3点目は防災対策についてです。

まず、最初の質問の市長の市政運営について。

今後の「重点的取り組み課題」として挙げられている「住み続けたい『安心・安全』のまち」、「新型コロナ終息を見据えた次の一手」、「子どもたちの歓声が響き合うまち」、「多様な人材が活躍できるまち」、「地域資源をフル活用『うれしの成長戦略2022』」、「最先端技術で切り拓く『スマートシティ嬉野』」について、順を追ってお伺いいたします。壇上からの質問は以上でございます。

再質問、また他の質問に関しては質問者席より行います。

○議長（辻 浩一君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（村上大祐君）

皆さんおはようございます。大串友則議員の質問にお答えをしたいと思います。

今後の市政運営についての重点的な課題、先ほど議員のほうから御紹介をいただいたとおりでありまして、スローガンとしては「守る。輝く。変わる。」ということでございます。災害、そしてまたいろんな交通事故、新型コロナウイルス、そういったものから市民の生命、財産を守っていくという基本方針。それから、多様な人材が活躍するということで女性活躍推進。また、子どもたち、未来の人づくりに対しても引き続き重点的に取り組んでまいりたいというふうに思っておりますし、また農業におきましては、若い人材をしっかりと育成していくということも含めて振興に努めてまいりたいというふうに思っております。

「変わる。」でございますが、本年9月23日に日程が決まりました新幹線開業に合わせて、様々観光の戦略であったり、また地政学的な大きな変更、変化というものに対応して、西九州の雄市として、しっかりと飛躍できるように頑張りたいというふうに思っておりますし、これは1期4年の中でも、コロナ禍という背景の中でも取り組みましたデジタル改革についても、力強く推進をしてまいりたいというふうに考えております。

以上、大串友則議員の質問に対するお答えとさせていただきますと思います。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

それでは、市長が「住み続けたい『安心・安全』のまち」ということで、嬉野市が2021年の住みよさランキングで、佐賀県で鳥栖市、佐賀市に次ぐ県内3位に浮上したということで、嬉野市は佐賀県内で3番目ですね。その要因に、やっぱり医療体制の充実とか、そこら辺がかなり、全国の総合評価で言っても嬉野の安心度が全国812市区のうち65位に上げております。それを基に、全国総合評価点の中でも812市区の中で331位と嬉野市は位置づけられていますけれども、これをもっと嬉野市に住みたい、住み続けたいと思われるような政策をどのように考えられているのか、お伺いします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

東洋経済新報社のランキングの基となるデータも読んでいただいたようでございますので、そこには医療の充実と、それから子どもの医療費が18歳までということもございまして、子育て支援に対しても非常に高い水準にあるということでもあります。一方で課題といたしましては、やはり商業施設の床面積というのが少し、今ランキングの中では下位のほうに位置づけられておりますけれども、西九州新幹線開業を機に様々民間投資を呼び込んでいく。また、住生活の環境の中では、交通事故というのが、これは佐賀県全体の傾向でもございますけれども、少し多めでございます。通学路の安全確保等も含めて、しっかりと安心・安全、そしてまた利便性の高いまちづくりの中で、もっともっと住みやすさを実感していただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

市長もおっしゃるとおり、やっぱり子どもたちに優しい安心・安全のまち、皆さんが住み

やすいまちにしていくことが嬉野市にとって一番いいことかなとは思っています。総合の評価をする中で、これはアンケート調査とかじゃなくて、いろんな分野の統計調査の中で順位が決まっているみたいで、嬉野市、快適度と富裕度が621位と627位と、それぞれ結構全国的に下のほうになっているかと思いますが、そこら辺の課題をどのように考えられておりますか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

全体的に所得については812市区の中では少し下のランキングのほうということでございます。それにはやはり世帯所得を上げていくという考え方の中で、これは私が「輝く。」というところで申し上げております女性の活躍推進の中で、女性の就労環境を今後充実していくというのはせんだってのいろんな議員の質問の中でもお答えをしましたがけれども、そういったところで、いろんな働きやすい、そしてまた仕事そのものをつくっていくという考え方の中で、そういった所得も上げていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

分かりました。

次に、「新型コロナ終息を見据えた次の一手」についてお伺いしたいと思います。

先ほど嬉野市の平均所得のことも少し言われたと思いますが、嬉野は基幹産業が多い中で、それぞれの基幹産業の収入を上げていくためにはどのような対策を取っていったらいいと考えられておりますか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

少し繰り返すにはなりますけれども、やはり世帯所得を上げていくという考え方の中では、女性も含めたところの就労しやすい環境づくり、仕事そのものをつくっていくということに尽きるのではないかというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

今、コロナ禍で、いろいろな茶業界でも農業でも窯業界でも様々な商売のあり方が変わってきているかと思えます。嬉野市にとってもすごい転換期を迎えていると思うので、やっぱり行政として、嬉野市としても、しっかりそこら辺を関係者と十分に話をした上で産業が発展していくようにしていただきたいと思います。

次に、「子どもたちの歓声が響き合うまち」、これはどのようにお考えですか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

子どもたちが、やはりまちの宝である、次世代をつくっていく人材であるという一面もございまして、学ぶ環境、また遊ぶ環境というのを未来の贈物として、我々大人社会が責任を持って充実をさせていくということが必要だというふうに思っております。

せんだって、様々議員の皆様から御質問いただいたとおりに、学校教育の中では英会話であったりとか、また理科教育の充実、そして体力向上という一面ではそういった遊び場の環境の充実等に努めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

市長の考えはすばらしい考えだと思います。ただ、市民の子育て世代の声を聞いていますと、嬉野市は子育て支援センターが日曜日休みということで、どうにかならないかという意見をよく聞きますけれども、担当課のほう、その辺の変更というのはできないですか。

○議長（辻 浩一君）

市民福祉部長。

○市民福祉部長（筒井八重美君）

お答えいたします。

今現在、子育て支援センターのほうは土曜日に2回開庁、開けているところです。それともう一つ、こどもセンターのほうはそれとダブらないような形で土曜日に2回開けて、月におおむね4回（490ページで訂正）、土曜日は開庁しているんです。それを日曜日にということになれば、また検討等が必要になってくるかと思えますので、そこら辺は今のところ土曜日開庁しながら見極めているというような状況です。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

結構平日、土曜日、仕事している世帯が多くて、やっぱり日曜日を開けてほしいという声が結構上がっております。子どもを遊ばせるだけが目的じゃなくて、お母さんたち同士、親御さん同士がコミュニケーションを取るという場でも大切な場所であるかと思っておりますので、もしよければ検討をお願いいたします。

次に、お伺いします。

「多様な人材が活躍できるまち」とありますけれども、多様な人材とはどのようなことを指すのか、お伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

多様な人材、主に女性活躍推進というものにつきましては、嬉野市としても力強く取り組んでいきたいということでもあります。女性が住みよい、そしてまた働きやすいまちであれば、こうした若年の女性人口の定着が図られるわけですから、それがひいてはまち全体の活力につながっていくという考え方の中で女性活躍推進を進めています。

それに加えて、やはりアクティブシニアと言われる高齢者の皆様、これは高齢者の就労環境の充実というところで議員からも質問をいただいたこともありますが、そういった高齢者が生き生きと、そしてまた生きがいを持って働けるようなまちであったり、また私は障がい者の方に関しましては農福連携ということで1期目の中でも進めてまいりました。農業と福祉の連携という中で、障がい者の方も働きながら、そしてまた人の役に立つという実感を本当に心の底から感じてもらいながら生きていただけるようなまちを目指したいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

今、いろんな業界で多様な人材不足が結構多発していると思っておりますけれども、いろいろ農業にとっても後継者がいないということで、農業をやめられるという農家さんが多分、結構増えられているかと思っております。

そこで、嬉野市としていろんなそういう基幹産業を助ける意味でも、もっと地域おこし協力隊、国からのいい制度があるので、そういう意味での人材確保というのは全然考えられていないですか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

人材を確保していく、どの業界でも今求められていることでございます。そういったことでもありますので、私は女性活躍推進の文脈の中では、こうした隙間時間を生かして働いていただくような「よかワーク」というのをまた武雄市と連携して取り組んでおりますし、また福祉の業界におきましては、今年度の予算からまた新しく市外に在住で市内の事業所にお勤めの方も対象にしましたけれども、そういった働き始める方に支援金の制度等を設けて、様々な人材確保についても市としても関与をしております。

御提案の地域おこし協力隊につきましても、今1名、大変頑張らせていただいております。移住、定住のコンシェルジュとしてこれから活躍をしていただけるものだというふうに思っております。

地域おこし協力隊員につきましては、私の基本方針としては、一人一人のミッションを明確にした上で、受入れ側の方と綿密な協議の上で実施をしていくという考え方でございますので、今後もそういったところのニーズがあれば考えてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

市長の考えはよく分かりました。ぜひ現場で困ってられる声をいろいろ取り入れて、政策のほうにつなげていってもらえればと思います。

そしたら次に、「地域資源をフル活用『うれしの成長戦略2022』」についてお伺いしたいと思います。

「うれしの成長戦略2022」とはどういうものでしょうか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

2022という言葉に関しましては、嬉野としては本年の新幹線開業というものが一つの歴史的な大きなターニングポイントになるかというふうに思いますので、あえて2022とつけさせていただきました。ただ、これは長期の展望に立って成長戦略を展開していくものでございますから、当然、新幹線開業を機に観光客、交流人口の増大、また移住、定住、企業立地

等の民間投資を呼び込んでいくというまちを進めてまいりたいというふうに思っておりますし、またデジタルトランスフォーメーション、DXの取組についても、小規模自治体としての先進的な事例として嬉野市の取組を評価いただいております。これをもっともっと深化させていくという方向で考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

今年9月23日に開業する西九州新幹線ですね。それに伴い、やっぱり地域、その新幹線駅の周りだけじゃなくて、嬉野市全体の地域がぜひよくなるような戦略を取っていってもらったらと思います。

最後の「最先端技術で切り拓く『スマートシティ嬉野』」、このスマートシティの考え方自体はどのようにお考えですか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

スマートシティ、いろいろ定義はあると思いますが、私たちは市民サービスの方向で考えていますけれども、これはコロナ禍ということを背景に、やはり長蛇の列、特に年度末はこういった窓口手続で訪れる方も多いわけであります。そういったところがコロナ禍にあって非常にリスクを伴うということでもございましたので、デジタル手続をやっていこうと。オンライン申請であったりとか、コンビニ申請というのもいち早く取り組むことができましたし、またそれを進めていながら、もっとAIであったりとか、そういった最先端の技術を我々の業務改革に生かして、そしてその果実を市民の皆さんに受け取っていただく。より便利な市民サービス、そして質の高い市民サービスというものを提供できるように努力をしてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

いろいろと市長が考えられるDX戦略も、やっぱり市民全員が利用でき、誰一人取り残されることのないようなサービスにしていってもらったら私はいいかと思います。

そしたら、次の質問に移ります。

西九州新幹線について、新幹線整備が地域に与える効果について市長はどのようにお考え

ですか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

西九州新幹線の暫定的な開業でありますけれども、それはそれで本当に大きな効果がこの地域にもたらされるものだというふうに思っております。長崎市内まで新幹線で25分ということでございますので、これは長崎市内への通勤通学の射程圏に入ったということを意味するわけでもありますし、またそれを機に、ほかの市町からの、長崎にお勤めの方中心になるのかもしれませんが、移住、定住にもつながっていく。果ては福岡ともひとまずは鉄道でつながるということでございますので、そういったところも含めて、企業立地のきっかけにもなるのではないかと期待しておりますし、我々もそういった地政学上の大きな転換というものを皆さんに強力にアピールをしながら、そういった誘致にも努めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

市長の考えられる経済効果というのはよく分かります。ただ一方で、暫定開業することによって、嬉野商店街のほうも私たちは取り残されるんじゃないかとか、そういう不安の声もやっぱり一部上がっておりますけれども、その辺どのようにお考えですか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

駅前にいろんなお店が集まることで中心商店街の空洞化を招くのではないかと御指摘ですが、これは商店街の皆様ともお話をさせていただいて、断じてそのようなことはないというお話をさせていただいています。と申しますのは、あくまで駅前に求める機能というものが、嬉野市の情報発信、また西九州地域全体の情報発信で、駅前で受け取った情報を基に、いろんなところに行ってみたいと思わせるような仕掛けづくりに徹していきたい。全て駅の中で買物も宿泊も完結するようなまちづくりというのは、そもそも設計思想の中で盛り込んでおりませんので、中心商店街でこんな面白いことをやっている、こんな面白いお店がある、こんなすばらしい人たちがいるんだという情報発信を駅前ですて、そこにしっかりと、中心商店街であったり、また塩田の地域であったり、また吉田のような農村地域、窯

元の町並み、そういったところも含めて誘導していく、そういった玄関口としての機能を重視してまいりたいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

先日、ある新聞社の記事によりますと、嬉野市、新幹線駅前が茶畑でもいいんじゃないかとか、そういう全然後ろ向きな言葉が出たり、やっぱり商店街の方が一番心配されているのは、民間を呼び込むためにプロポーザルで選ばれたあそこの民間の商業施設、そういうところができることによって自分たちの商売が危うくなるんじゃないかとか、そういう心配の声がよく聞かれます。

9月23日に向けて、ゾーンで言ったらAゾーンですかね。商業施設のほうの開発は今どのように進んでいますか。担当課のほうにお伺いします。

○議長（辻 浩一君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（松尾憲造君）

お答えいたします。

場所については1度資料をお渡ししておりますが、こちらの資料ですね。駅前の国の整備と公園のほうと隣接しているエリアにつきましては、議案質疑の折にも説明を行いましたが、9月23日の開業とともにオープンということを目指して、現在、設計等を進められているところでございます。

図面で言うと左側、医療センター側ですね。こちらにつきましては、開業時に全てをオープンするというのではなくて、まちとして将来的に成長していく形を取っておりますので、今後、数年かけてでもいろんな店舗が展開されるものと考えております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

これは民間に委託しているという考え方で大丈夫なんですかね。

○議長（辻 浩一君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（松尾憲造君）

お答えいたします。

委託しているということではなくて、事業用定期借地契約を締結しているということにな

ります。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

それでは、その契約をしているということで、これはプロポーザルのところで契約しているかと思えますけれども、今、プロポーザルで5者関わっているかと思えますけれども、その点は進捗のところは担当課はずっと把握されていますか。

○議長（辻 浩一君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（松尾憲造君）

お答えいたします。

進捗につきましては、随時協議、調整等を行っておりますので、密な協議を今も続けているところでございます。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

分かりました。私てっきりあそこも含めて全て開業に間に合わせると思っていたので、そうでないということで理解しました。

次の質問に移ります。

先ほども市長の答弁でありましたけれども、新型コロナウイルスの感染拡大が長引く中、地域振興と産業経済の活性化及び市民への経済支援をどのように考えているのか、もう一度詳しくお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

来週明けにも全国的にもまん延防止等重点措置が解除されるということでございますので、それに伴って各種旅行キャンペーン等の再開というのを取り沙汰をされてきております。そういったところの流れを間違いなく、当然、感染症対策には十分注意することが前提にはなりますけれども、そういったところの流れを新幹線の開業までの助走期間と位置づけて、しっかりと情報発信等に努めてまいるのがまず1つだというふうに思っております。

また、各商店の取組を支援するというので、これは昨年の中ではチャレンジ事業補助金

等々もさせていただきました。これを新年度の予算の中では、今度は新幹線開業のおもてなし体制整備の中でこうした新たなチャレンジであったりとか、横のつながり、連携を持ってこのアイデアを出していただくような応援等、商工支援は充実をさせてまいりたいというふうに考えております。また、売上げの減少に伴うような、そういった事業復活の給付金制度の手続の支援等も商工会と連携をして行っております。これはこれからやはり大きなチャンスに向かって走っていくためにも、私たちもしっかりと各個店の事情に寄り添って対応してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

先ほど市長の答弁の中で、いろいろチャレンジ事業補助金のこととか、補助金の話が出ましたけれども、やっぱり補助金も使う以上は、使ったら終わりじゃなくて、飛行場で例えたら、補助金が滑走路になって、その後、自律して飛び立てるような形で補助金の使い方というのいろいろ考えてもらったと思います。補助金を使う側も、個人個人で使うのではなく、単独で使うのではなく、やっぱりいろんな横のつながりをしていくことが大切だと思います。そこは市長のおっしゃるとおりだと思います。

そしたら、次の質問に参ります。

庁舎のあり方について、いろいろな議員の方が質問されたので、今後のスケジュールとかは十分理解をしました。今後進めていく中で、今、やっぱり一部反対の声が強くなってきているかと思いますが、市長も十分説明のほう、ずっと各地区でされていますけれども、今後こういう方たちと、説明会とかじゃなくて、市長、対話的な話合いのほうをされる予定とかは全くありませんか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

庁舎に関しましては、かなりそういったところで議論を呼んだ部分もございますので、こういった合併当時の事情等も勘案をしながら、やはり議論を尽くしていくということであろうかというふうに思っておりますので、そういった説明の場をいろんな形で一緒に考えていこうというスタイルの中で発信をしてみたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

私もやはりその地域の皆さんとしっかり十分話をして進めていくことが大切かなと思っております。ぜひそこは抜けがないように、しっかり十分話合いをした上で進めていってもらえたらと思います。

最後の質問に移ります。防災対策についてです。

水害に強いまちづくりと市長挙げられていますけれども、これもほかの議員の説明で、ほぼ市長が考えられている水害に強いまちづくりというのは理解をできております。

私が1点だけ思うのが、やっぱり今、50年に1度の災害というのが毎年のように来ている中で、大規模な停電だったり、電波障害だったりが起こることも考えられるかと思えます。それがもし起きたときの対策とかは今の段階で考えられていますか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

大規模停電、これは特に台風が最近は、九州はもともと台風はあるんですけど、嬉野はあまり台風が来なかったところでもありますけど、実際に台風で停電をしたということもありましたので、庁舎も一時停電したこともございました。そういったところもありますので、やはり対策を講じていく必要があるだろうと思っております。

この庁舎自体にも非常用電源、その停電があったときもすぐ非常用電源に切り替わったので、バックアップはありますし、また医療器具、医療的ケア児ですね。子どもさんで呼吸器等を御家庭でなされている方が、停電のときには大変命に関わる問題でございますから、私どもとしては、これは常備しておくべきだろうということで、非常用電源の可搬式のものも用意しております。もっと大きなところでは、今度、新幹線駅前にできてきます道の駅も、これは非常用電源を備えた施設になっていく。道の駅の考え方自体も、国も今、防災拠点としての機能というものを重視するようになりましたので、そういったところも含めて、全体的にやはりこうした大規模停電に対応していくまちづくりも当然進めていくべきだというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

大串友則議員。

○2番（大串友則君）

市長がおっしゃるとおり、備えをしておくことが一番大切かなと思います。やっぱり嬉野市、地域コミュニティというのがありますので、そこを中心に、よもやの事態に備えた体制づくりを今後進めていってほしいと思います。

嬉野も今年、新幹線が開業して大きな転換期を迎えていると思います。市役所の皆様もいろいろな対策とかで大変かと思いますが、やっぱり市民の声を大事に聞いて今後進めていってもらえたらと思います。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（辻 浩一君）

これで大串友則議員の一般質問を終わります。

一般質問の議事の途中ですが、ここで10時15分まで休憩いたします。

午前10時4分 休憩

午前10時15分 再開

○議長（辻 浩一君）

再開します。

先ほどの大串友則議員の答弁の訂正の申出がっておりますので、これを許可します。市民福祉部長。

○市民福祉部長（筒井八重美君）

先ほど大串友則議員に対する答弁の分で誤りがありましたので、修正をしたいと思います。

先ほど、子育て支援センターとこどもセンターと週2回ずつというような答弁をしてしまいましたけれども、こどもセンターは土曜日に2回、子育て支援センターは土曜日に1回で、合計して土曜日3回、重ならないように開庁しておりますので、そこを修正させていただきます。

大変失礼いたしました。

○議長（辻 浩一君）

一般質問を続けます。

議席番号14番、田中政司議員の発言を許可します。田中政司議員。

○14番（田中政司君）

皆さんおはようございます。議席番号14番、田中政司です。

傍聴席の皆様方におかれましては、早朝よりの傍聴、誠にありがとうございます。

本年1月に行われました市議会議員の改選におきまして、市民の皆様方の御支持を受け、再度この壇上に立つことができました。改めて感謝を申し上げますとともに、これからも初心を忘れず、嬉野市政の一翼を担う市議会の議員として、嬉野市の発展と市民の福祉向上のために精いっぱい努めてまいりますので、よろしく願いをいたします。

さて、世界に目を向けますと、ロシアの武力によるウクライナ侵攻が開始をされ3週間がたちます。私たち嬉野市議会もロシアの武力によるウクライナ侵略に対し、これを強く非難するとともに、政府に対し、平和的な解決に向け毅然とした対応を求める意見書を提出させていただきました。この悲惨な戦争の犠牲となられたウクライナの国民に一刻も早く安寧の

日々が訪れることを願うばかりであります。

また、昨晚は、この一般質問の原稿を書いている途中に、福島県沖を震源といたします最大震度6強という地震が発生をいたしました。幸いにも津波の被害というものの報告はなされていらないようですが、この地震によって亡くなられた方が今現在2名、そして、けがをされた方が100名弱というふうな報告を受けております。また、自動車道、あるいは鉄道等のインフラにおきましても相当な被害が出ているというような現状であります。亡くなられた方、そして、被害に遭われた方に対し、心より御冥福とお見舞いを申し上げますとともに、早急な復旧、あるいは復興を願うものであります。

いつ何どき何が起こるか分からない、今まさにそんな状況下の中、改めて災害、あるいは有事の際に対する心構え、対応を考えさせられる今日この頃であります。

若干前触れが長くなりましたけれども、議長の許可をいただきましたので、通告書に従いまして一般質問を行います。

今回、私は4年ぶりの一般質問の登壇であります。そして、村上市長とは初めての一般質問ということでありまして、大変緊張をいたしておりますが、私なりに頑張りますので、どうかよろしく願いをいたします。

それでは、まず1点目に今後の市政運営全般にということで質問をいたします。

村上市長、初就任から1期4年が経過をし、これから2期目の市政運営を進めていかれるに当たり、市長個人として何を一番大切に、そして、何を目標にこの市長の業務を遂行されていかれるおつもりなのか、お伺いをいたします。

再質問及びあとの質問、選挙広報の内容と農業政策というものにつきましては質問者席より行いますので、よろしく願いをいたします。

○議長（辻 浩一君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（村上大祐君）

それでは、田中政司議員の質問にお答えをしたいと思います。

今後、私自身が何を大切に市政運営を担っていくのかというお尋ねでございます。

1期4年の振り返りといたしましても、最初の議員の質問からもいただきましたけれども、一言で申し上げれば市民の命と向き合う4年間でございます。そういった中で、産業の振興であったりとか、また、デジタルトランスフォーメーションのようなDX、新しい時代への対応等、また、新型コロナウイルス、そういったことにも対応していくのはもちろんなんですけれども、全てがやはり市民の安心・安全、生命があってこそそのことだというふうに考えております。であれば、当然この安心・安全なまちづくりというものが最優先の政策事項として上がってくるのは言うまでもないことかというふうに思っております。

8月の豪雨災害からの復旧・復興というものの、その教訓を踏まえた減災対策を講じていく

必要があるというふうに考えております。長期的な展望に立てば流域治水、そしてまた、塩田川の抜本的な治水対策にソフト、ハードの両面から取り組んでいく必要があろうかというふうに思っておりますし、すぐにできることとしては、市民の皆さんの協力もいただかなければなりませんけれども、危険を感じたらすぐに身を守る行動に移していただく、この行動変容をいかにしていただくか、それには最新技術、そしてまた、そういった最新技術を基に解析した情報に裏打ちされた情報発信をしていく防災DXといいたいまいしょうか、浸水予測であつたりとか、また、周辺の避難所の状況等も皆さんにプッシュ型で情報発信を行っていくことで適切な行動を取っていただくようなまちづくり、そういったことも目指してまいりたいというふうに思っております。

また、子どもたち、そして、お年寄り皆さんが笑い合っただけで生活できるためにもしっかりと、皆さん一人一人が輝くまちづくり、そのためには次世代の人づくりに積極的な投資も行っていくことが必要だというふうに思っております。

この厳しい激動の時代に生まれ落ちた政治家としての宿命というものを背負いながら、しっかりと一步一步前進をしてまいりたいというふうに考えております。

以上、田中政司議員の質問に対するお答えとさせていただきますと思います。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

どうもありがとうございました。

私、4年前に議長の席に座りまして、村上市長の初就任のときから4年間、いろんなところで市長とお会いし、お話をしてまいりました。

そういう中で、私、思ったんですが、就任から2年間は前市長の継続といえますか、事業の継続等であったのかなど。そういう中で、あとの2年間は、先ほど市長が言われるように災害、新型コロナウイルス、本当に人命に対する施策といえますか、常に対応に追われた2年間だったんじゃないだろうかと。そういう中で、就任当初、スピード感を持って市政運営に当たりますというふうな言葉が、私、非常に印象的だったんですが、なかなかそこら辺が思うようにいかなかった4年間ではなかったのかなというふうに、これは私なりに思っております。

そういう中で、今からの市政運営をしていく段階では、とにかく人の命を守るという責任から、市民の皆さんにいち早く避難していただくための行動だとか、そういったことをしていただくようなことを進めていきたい。そのためには、災害時のDXの活用だとか、そういったことを今後進めていくというふうなことだろうと思うわけですが、私、やはり市民の方が避難をしていただく行動を取っていくためには、市長の市民に対する信頼度といえますか、人間性といえますか、私を信じてくださいというふうな市長の市民に対する対応、人と

しての対応、これは非常にこれから大事になってくるだろうし、私はそれが一番大事じゃないかなと。そういった意味で、市民との対話というものをまずはやっていただきたい、コミュニケーションを取っていただきたい、そう思いますが、市長いかがですか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

議員御指摘のとおり、私もそれが一番大事だというふうに思っております。平時からの備えの一つだと私も思っておりますので、各行事等、そういったところに機会があれば必ず出ていくようにしていきたいというふうに思っておりますが、なかなかこうした新型コロナウイルスの中で、人前に出る機会が少なくなったのも現実だというふうに思っておりますので、私自身も、逆にそういった機会をつくっていくことも重要だというふうに思っております、広報・広聴課という新しい課を設けさせていただきましたけど、広聴活動に相当するものをいろいろと工夫をしながらやっていかなければならないと思っております。

その中で、一つ手応えを感じたのが、女性活躍推進の施策で、市内でいろいろと活躍をされている女性の皆さん、そしてまた、いろんな企業の皆さんが集まって、嬉野の5年後の未来を一緒に考えていこうというセッションを11月に行いました。そういう中でいろいろとアイデアもいただきましたし、そのアイデアに向かって一緒にやっていこうよという機運も高まってきたかというふうに思っております。

市の職員側も、ああいったセッションをいろいろ開いていくにはファシリテーターとしての技能というのが求められますので、職員が、そしてまた、私自身の資質も向上させていながら、対話の機会、そしてまた、対話の手法についても、新しいやり方で市民の方とコミュニケーションを紡いでいきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

どうもありがとうございます。そうですね、とにかく今後そういったことで頑張っていっていただきたいと思えます。

それでは、2番目に移っていきますけれども、嬉野市長選挙の公報を一つ参考にといいですか、内容について伺ってきたいと思います。

これにつきましては同僚議員のほうからいろいろ質問が出ておりますので、ざっくりといえますか、そういった形の中で、これはあくまでも市長が、自分が市長になったときの公約ということで、ある意味ざっくりとした、こういった方向で自分は進めていきたいんだとい

うことだろうと私は理解をしておりますので、ざっくりとした中での質問になろうかというふうには思いますが、出しておりますので、簡単に結構ですので、答弁をお願いしたいと思います。

まず1点目に、STEP①の中に災害専門チャンネルの開設についてというふうな項目がございますが、この点について、災害専門チャンネルをどういった形で思われているのか、御説明のほうをお願いいたします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

災害自体が局地化をしているという傾向もございます。そういった意味では、佐賀県全体の情報に関しては、地上波のテレビで対応できる部分もあるかもしれませんが、こういったゲリラ豪雨に代表されるような局地化する災害に対して、もう少し市民の皆さんに切迫度を持って受け止めていただく必要もあろうかというふうに思いますし、行政のほうからも、こうした情報発信をプッシュ型で、つまり、テレビをつけていなくてもスマートフォンとか、そういった――よそのチャンネルを見ていたら、dボタンを押したら赤い字で警告されるような、そういうプッシュ型の情報発信で災害の関連情報を発信していく仕組みができないかということを考えておりました。

そういう中で、塩田地区では、ケーブルテレビのはがくれテレビで、塩田川のライブカメラを見ることが出来ますけれども、嬉野エリアのほうではそういったのが見れないということで、今、事業者さんの協力を得てネットで公開はさせていただいていますが、そういったところでの温度差といいますか、やはり嬉野市として、塩田川1本で嬉野と塩田はつながっていますので、そういった情報発信、そして、安心・安全の情報発信をしていく仕組みを、市内の2局のケーブルテレビ局と協議をしながらやっていけないかというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

分かりました。私も災害対策支援本部が立ち上がったときに塩田の庁舎に詰めさせていただきましたが、テレビで塩田川の今の水位等の情報が随時流れていると。これは市民の皆様方にいち早くライブでお伝えをしていく、これは非常に大事だろうというふうに思います。

それと、今どういうふうな状況なのかというのを災害対策本部がまず把握をしないと、な

かなか情報を伝えるにも伝えられないというところがあるかと思うんですね。そういう中で、それはライブということに限らずなんですけど、昨年の豪雨災害のときに内野山集落の崖崩れ、大規模な土砂崩れが発生をしたわけですが、これを一番初めに確認されたのは誰か、これは担当課で分かりますか。

○議長（辻 浩一君）

建設部長。

○建設部長（井上元昭君）

内野山の大きな災害につきましては、区長さん等を通じて連絡がありましたので、現地の確認はすぐできたんですけども、ただ、全容がなかなかつかめなかったというのがあります。というのが、今はドローンといったものを用いて全容をつかむということになりますけれども、ちょっとまだ当市のほうがそういった準備ができていなかったということもあって全容がつかめておりませんでしたけれども、災害が起きたということはいち早く察知はしておりました。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

それと、万才から鍋野へ行く道路ですね。あれは林道に――市道になるのかな、あそこも手前のほうが崩落をして奥へ行けない。奥の状況が分からなくて、そこに行ったらまた奥もというふうなことだったろうと理解をしております。やはりここら辺を考えたときに、情報をいち早く収集するシステム、これは嬉野市だけでは非常に難しいのかなという感じはするんですが、よその自治体では、今先ほどおっしゃられましたドローンを使った、そういうふうな災害をいち早く掌握するシステム等を開発して導入されている自治体もあるわけですね。

今後、DX、市長がそういったいろんなものを使いながらいち早くやっていきたいということであれば、これはあくまでも私のあれなんですけど、杵藤広域圏とかね、例えば、水害の状況がどれぐらいの範囲で今広がっているのかとか、あるいは土砂崩れの状況がどうだろうかというのをいち早くやるために、民間なのかどこか分かりませんが、ある程度そういうふうなシステムをですね、いわゆる連携協定ですよ、よその自治体でやっているところをみると、そういう災害の連携協定というものを結んで、情報の収集がいち早くできるようなシステム、これについても考えていくべきだろうと思いますけど、市長いかがですか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

今回のような大規模な土砂崩れの現場の全容を把握するには、やはり上空からの視点というのが重要だというふうに思っております。私自身も、特に内野山に関しては、塩田庁舎から嬉野方面に視察に行くとき、どうもあの辺りがちょっと崩れているようだということは分かりましたけど、正確な位置がなかなか分からずに、県の防災ヘリの写真で最初の事態を確認したという経緯もございます。

そういった中で、やはりこれはドローンで上空からの視点を変えての状況把握をしていく方策に直ちに取りかからなければならないというふうに考えておりますので、現状、民間企業、建設会社も含めてドローンをお持ちですので、同時多発的な災害に対応できるかどうかというのは、ちょっとまだ議論の余地はあるかもしれませんが、やはり連携を呼びかけていくということが大事だというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

県の防災ヘリの写真でというのが私もちょっとあってですね。佐賀県が防災ヘリを導入して、武雄の災害——あの浸水と、嬉野の崖崩れと言われるものですから、まあいいです。いづれにしても、早急な対応をお願いしたいというふうに思います。

次が、山間部集落孤立ゼロというふうにありますけど、このことについて、簡単に結構でするので、御説明をいただきます。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

昨年8月の豪雨におきまして、不動山地区でございますけれども、生活道路が通行止めとなったために、一時孤立であったりとか、また、通行困難というような地域が生じました。そういったことも踏まえて、やはり迂回路も含めたところでの道路を、国、県に要望しながら充実させていくということが大事だろうというふうに思っておりますので、この点のスピードアップを急ぎたいという意味でのこの項目でございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

こういう迂回路がない地区というのは嬉野に何か所ぐらいあるのか、総務・防災課か、あるいは建設課のほうで——仮にここの1本の道路が有事の災害で通れなくなった場合に完全

に孤立する地区の数というのは、どれぐらいありますか。

○議長（辻 浩一君）

建設部長。

○建設部長（井上元昭君）

すみません、全体的な数は、今、資料がございませんので、把握しておりませんが、今回の災害でそういった箇所が実際発生しております。そういったことにならないように、日頃の点検も必要と思っておりますし、被災した場所にどうやったら行けるかという部分の把握も必要になってきますので、今後その点についてはしっかりと把握をしたいと思っております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

ぜひそういったところは把握をして、塩田の殿ノ木庭地区ですかね、そこなんかも手前がもし通れなくなったら吉田のほうへは行けないということで、以前、私もたしか一般質問か何かで、あれを吉田のほうへ通したらどうだというふうなことも言った覚えがあります。ぜひそういったところを早急に解消するようにお願いをいたします。

続きまして、STEP②に外遊び環境の充実というふうにあります、具体的な考えをお伺いいたします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

外遊び環境の充実ということで、子どもたちが遊ぶ公園のことを具体的には指しますけれども、ふるさと納税を財源に、昨年度、一斉に遊具を更新したところ、多くの方にまた公園を御利用いただく機会が増えたということで、それはそれとして本当にいいことだと思うんですけども、そういった中で、トイレをもう少し使いやすくしてほしいとか、また、夏場は熱中症が怖いので、日よけみたいなものがないか、そういったお父さん、お母さんたちのお声もいろんなところで伺いましたので、そういったところを一つ一つ対処していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

この点については、私たちの頃は外で遊んでいたんですけども、なかなかということがあ

りますので。しかし、今、若いお母さんたちは外で遊ばせようというふうなことで、本当にみゆき公園等の遊具がよくなって、あるいはほかの公園等の遊具もよくなって、その遊具を使って外で遊んでいらっしゃるお子さんというのが非常に多く見かけられます。それをもっと充実させるような施策は今後ぜひお願いしておきたいと思います。

次、変わるとはという中に民間投資というのがあります。どのような場所にどのような形で民間投資というものを考えておられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

1つ象徴的なのは、新幹線の駅前の開発なんかは民間投資を呼び込むという方針の中で行ってまいりました。駅前開発と言えば、普通は何十億円も自治体が投資をして行う性質のものでありますけれども、そういったところを民間事業者の創意工夫の下で、また、維持管理費、そういったところも含めて経営的に成り立つようなところを考えていただきながらしていただくという優れた制度だというふうに思っておりますけど、そういった整備を行っていくのを市内全域にもまた広げていきたいというふうに思っております。

西九州新幹線の開業というものを機に、移住・定住、企業立地というものも積極的に進めていく、それ自体も民間投資でもありますし、また、こうした宅地の開発、造成、そういったところも含めて民間投資ではないかなというふうに思っております。

当然、我々としても民間投資を呼び込むのに必要な公共投資というのは行ってまいりますが、こうした将来への財源負担というのが、公共で行うとどうしてもその問題がつかまえますので、民間の活力、創意工夫というものを嬉野市に呼び込んでいけるように、私どもも情報発信、そしてまた、いろんな民間事業者との協議というものも進めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

私もそう思います。

ここの質問の7番に、市全体のまちづくりというのがあるんですが、ここもリンクをいたしますので、一緒の形で聞いていきたいというふうに思うんですが。

というのは、先ほど、民間投資というものを進める中で、定住促進等の開発行為等においても民間投資、民間活力を利用しながら今後やっていくことも、一つの民間投資を呼び込むことであろうというふうな答弁だったろうと思います。そういう中で、先般の諸上栄大議員

の質問の中でもそういったことを市長はおっしゃられておりました。

そういう中で、皆さんにお配りしたこの表というか、（資料を示す）これがあるんですよ。まちづくりというかな、そういった中で、今後、新幹線が開業する、嬉野市が移住・定住をする、それで、長崎まで、あるいは将来的にはフル規格というものを我々は目指しているわけなんです、それがなったときには福岡まで通勤・通学の嬉野ということで、それを目標にというか、移住・定住を増やしていくという考えの中で、宅地開発等々を今後行っていく。しかし、それは公共事業としては非常に莫大な金がかかるので、民間の活力を期待しながら呼び込んでいきたいということだろうと思います。

ここにですね、（資料を示す）嬉野市内児童（小学生数）の推移ということで、教育委員会のほうに資料をお願いいたしまして、平成2年度から5年単位で平成22年度まで、そして、平成27年度から令和2年度までは1年刻みで、そして、令和3年度から令和9年度までは、これはあくまでも今出生された、その地域で生まれられた子どもの予想ということで、一応、私が資料を基に表を作らせていただきました。

そういう中で、これをずっと見よって、久間小学校の平成12年から平成17年、5年間で一気にここは上がっているんですね。ここら辺の要因は、副市長、何か——副市長も任期の最後だと思えますけれども、この数字についての副市長なりの見解というか、そこら辺をお話しただけならと思えますけど。

○議長（辻 浩一君）

副市長。

○副市長（池田英信君）

それでは、お答えをいたします。

この増加については、恐らく平成4年に塩田町の人口減少政策として、のぞえ住宅団地の開発というのをいたしました。その成果が出てきているというふうに思います。そこののぞえ住宅団地そのものが95区画ぐらいございまして、平成10年1月から分譲を開始して、徐々にずっと増えていって、平成11年には20世帯になったんです。その後は、今現在92世帯で、多くの方が居住をされております。そういった要因が大きいのだろうというふうに思います。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

それともう一点が、平成27年度から令和2年度までの6年間、五町田小学校、久間小学校、塩田小学校、嬉野小学校については、子どもの数は増加しているんですね。轟小学校、大野原小学校、吉田小学校、大草野小学校、これについては、この5年間減少をしているというところなんです。

これはあくまでも私なりにこういったときに、嬉野小学校は第七、第八の区画整理事業があつて、そこへ宅地ができてということで、こういうふうな結果になっているんだろうというふうに思います。

市長、私が作ったこれを御覧になられて、どういう見解をお持ちですか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

私の世帯もその一つなんでしょうけれども、やはり移住をしてきて増えている部分だろうと思っております。その中では宅地開発、特に塩田地区の宅地に関しては本当に値頃感がありました。私も購入した一人でございますけれども。そういった宅地開発と相関関係にあると見て、間違いないのではないかというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

私、何を言いたいかというと、そういった民間投資を呼び込む——どうしても一番売れる層といいますか、言い方はちょっと語弊があるかも知れませんが、やはり早急に処分をせんぎかん。これは市がやるにしても一緒のことだろうとは思いますが、それはそれで理解をするところです。

ただ、この学校の児童数というのを見たとき市長は、今ある小学校はとにかく維持をしていくというふうな考え方でずっと言っておられます。統廃合を考えるよりも、今の小学校の体制をずっと維持していきたいというふうな考え方でおられます。そうなったときに、やはりこのまちづくりといいますか、学校の児童数の問題だとかを考えたときに、ただ単純に、住宅地になりそうな、そういったところへどんどんというのではなくて、学校の児童数も併せて、今後、市は計画を立てていくべきだろうと思いますが、市長いかがですか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

今後の都市計画の中で、居住誘導区域であったりとか、そういったものを設定するときには、学校の施設の更新計画も含めて、やはりそこにも反映させていかなければならないだろうというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

やはり学校の近く、あるいはそういったところでのね、今日はあくまでも市長の公約の中で一般質問ということで、ざっくりとした話で質問をさせていただいておりますけど、今後、総合計画の後期等をつくっていく、あるいはまた立地適正化、そういったところも考えなければならないふうになってくるんだろうと思います。そういったときにはそういった配慮もしていただきたい。

もう一点お聞きをしたいのが、例えば、宅地開発を行っていくというときに、今、武雄は水害等があって、水害に遭われた方が高台へ移転をするというときには、市と一緒に国と一緒になって国の事業等を受けながら優遇措置みたいな感じのことをやっていますけど、普通はそういうことは簡単にはできないというふうに思います。しかし、大村市はですね、非常に大村市は伸びているんですね。開発を行う区域内は、当然それは民間の業者が全て行うわけですね、上水道、下水道等の。しかし、そこへ行くまでの間というのが仮にあったとすれば、それは行政側が本管はやりますと。市によって、例えば、民間の投資を呼び込むということになれば、それなりの自治体の工夫をやっていらっしゃる場所もあります。そこら辺は、今後、市長が大手のハウスメーカーとか——いろんなありますけれども、そういったところを呼び込んで開発行為等を仮にやっていかれるというおつもりがあるならば、早急にそういったルールづくりをしていくべきだろうと思いますが、市長いかがですか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

民間投資を呼び込む上では、やはり都市計画というものの重要性というのは、私もこれはやってみなきゃ分からなかったことだったと思っています。企業立地一つとっても、そういった宅地の開発を誘導するにも、やはり都市計画というものにしっかりと位置づけてやっていけば、民間の投資を呼び込みやすくなるような支援策を講じることも可能になってくるというようなものでございますので、私どもといたしましては、まずはそういった都市計画という全体の中で、居住誘導区域の話先ほどしましたけれども、そういったものをしっかりと位置づけてやっていく、その中でルールづくりは進んでいくものだというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

次に行きます。

次に、新幹線開通に伴う商施設充実とありますが、既存の商店街等との関係、あるいは具体的な考えをお伺いいたします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

新幹線の開通に伴って、商業施設をいろいろと、やっぱりにぎわいという一面からつくっていきたい。これは新幹線の駅周辺だけのことを言っているわけではありません。この嬉野の可能性を皆さんに見いだしていただいて、いろんな魅力的なお店ができてくることを期待して、そういった企業とか、また、空き店舗活用の支援策を充実させていく、また、スタートアップも含めたところの支援をしていくということだというふうに思っております。

そういう中で、先ほど商店街との関係性の中で別の議員の方から御質問がありましたけれども、駅前に何でもかんでも集めて、そこで完結するようなまちづくりを思考しているわけではなくて、既存の店舗に対していろんな人の流れができていくような仕掛けづくりを考えておりますので、駅で触れた嬉野の魅力をもっともっと深く体験したいという方が、商店街のお店なり農村地域、また、窯元、そういったところに足を延ばせるような、嬉野市全体としてのおもてなし体制をつくってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

分かりました。

そういう中で、令和4年度から解体工事が始まると予定されている旧医療センターの跡地なんですが、このことについては、今どのような形、どういうふうな進捗になっているのかというのを、まず担当課にお尋ねをいたします。

○議長（辻 浩一君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（松尾憲造君）

お答えいたします。

令和3年度、本年度において、国土交通省の煽動的官民連携支援事業ということで、様々な民間事業者からのサウンディング調査、お声を聞いております。実際、十数社、いろんな業態の方にお話を聞いた中で、一部の事業者からは興味をいただいております、今後進め

ていける部分については、そういった形で進行していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

具体的に言いますと、今サウンディング調査で十数社、何社かは興味を示されているという中で、これは令和4年度からたしか解体が始まって、令和7年度までに完了というふうなことをお聞きしておりますが、これについては間違いないですか。

○議長（辻 浩一君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（松尾憲造君）

お答えいたします。

解体工事のスケジュールにつきましては、議員おっしゃるとおり令和7年度までを予定されております。ただ、この間、何もせずということではなくて、現在のところ西公園の利活用を含めた形で、一部先行してできないかということで調整を行っているところです。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

ぜひこちら辺、これはあくまでもちまたと申しますか、嬉野市民の方から、あそこに商業施設がどうのこうのというふうな話もちらほら聞くんですね。そういったことで、今回この席であれですけど、まだはつきりどこがどうだということは決まっていないということで確認しておきたいというふうに申しますが、いかがですか。これは市長ですか、担当課ですか。

○議長（辻 浩一君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（松尾憲造君）

お答えいたします。

議員おっしゃられるように、まだ具体的に決定している事項というのはございませんけれども、医療センター跡地の活用というところを大きな視点で見たときに、新幹線の駅前とこの医療センターの跡地、これで既存の温泉街、商店街のほうを挟み込むような位置関係にございますので、双方の波及効果があくまでも商店街のほうにもたらされるような計画を進めております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

これ以上いくと、通告書に沿ってと言われそうなので、次に行きます。

次、6番の若手農家を育成、ドローンの資格や技能支援というふうに公約の中にあるわけですが、市長の考えていらっしゃる具体的なことをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

これからの農業の未来を考えたときに、みどりの食料システム戦略というところで、2050年までに達成すべき事項として、有機であったりとか低農薬の方向性というのは、ヨーロッパ、アメリカ等と同等の水準を国内流通においても要求されるであろうということが容易に推測できるわけであります。これは農家さんにとっては大きな負担になるということはもちろんなんですけれども、ただ、社会的な要請、国際的な要請に応じていく日本国の立場というものも理解はできるわけでありますけれども、その国際的な要求に沿って持続可能な農業を展開していくに当たっては、やはり若い人たちの力、そして、力のあるうちにいろいろと挑戦をしていただくということが重要だろうと思っております。大分前から、当初より新規就農とか、また、若手農家の育成に力を入れてまいったところでございます。

塩田地区の園芸ハウス団地はその代表の一つでもありますし、また、今年の8月豪雨で嬉野のお茶農家さんの、特に働き盛りの若い人たちが困っておられました。それに対して、もう一度立ち上がって一緒にやっという気持ちも込めて、県と折半する形でのこうした支援制度を展開させていただいておりますけれども、若い農業の方をですね、これをやっという、嬉野の未来を一緒につくってというパートナーとしてこれからも応援してまいりたいというふうに思っております。

そういう中で、新しいスマート農業というものも進めてまいります。その中で、ドローンの資格であったりとか、基礎的な、また、発展的な技術取得に対しても、やはり未来への先行投資としてやっていかなければならないことだろうと思っております。こうした政策項目の中に付け加えさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

分かりました。確かにいろんな若手の農家が——お茶のことについては次に行きますけれ

ども、若手の農家さんが本当に今、一生懸命、嬉野で頑張っていてやっていただいております。いろんな情報発信もしながら、自分で作ったものを自分で販売していく、そういった体制も徐々に徐々に出来上がりつつあるのかなというふうな気がいたしております。

そういう中で、ドローンの資格ということなんですが、これも今後は多分大事になってくるだろうというふうに思うわけですが。

嬉野に多分1,300ヘクタールの水田があって、そして今、減反等がありますので、嬉野市内に800ヘクタールぐらいの水田がたしかあるというふうに私は理解しております。その800ヘクタールのほとんどが、水田等においては今のところはヘリコプターの防除というものでやっておられるわけですね。そういう中で、今後ドローンというものがヘリコプターと変わらない精度、あるいは効力等が確認をされれば変わっていくのかなという気はしております。ヘリコプターの防除というふうになれば、当然、今、嬉野にはそういう機材、機種等は誰も持っていないくて、JAさんが鹿児島とか宮崎だとか、そういうふうなところから経済連から呼んできて、その方たちと委託契約を結んで防除を行っていただいているというふうな状況なんですね。

そういったことを考えれば、今後それよりも格安のドローン——産業用マルチコプターといますか、そういったものを使ってやる、そういうことになれば、委託先としてJAさんが払っている県外へ出ているそのお金が、嬉野市内で、嬉野市の農家さんが嬉野市の農家さんへ委託料を支払うというふうなことで回っていくわけですよ。そういった意味においても、今後、若手のそういう農家の方が当然取られるだろうと思いますけれども、そういった方を育てていく上でも、やはり農業政策課としてもJAさんと一緒になってそこら辺は進めていっていただきたいなというふうに思いますが、まず、課長いかがですか。

○議長（辻 浩一君）

農業政策課長。

○農業政策課長（井上 章君）

お答えいたします。

まさに議員おっしゃるとおりと思っております。今現在、市内には、私が確認しているところでは8台のドローンを活用されて、約800ヘクタールの防除あたりをされておりますので、今後はJAさんと共に活用を検討していきたいと思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

800ヘクタールを8台のドローンじゃでけんですよ。それはとても今の段階では多分無理だろうと私は思いますけどね。

いずれにしても、だから、幾らでどれぐらいの面積、これもやはり短期に、一遍にならな
きやいけないわけですから、適期の防除ということで。だから、どれぐらいの台数が必要で、
どれぐらいのあれが必要なのかということは、私もちょっと今分かりませんが、多分もっと
台数が必要だろうし、オペレーターも必要になってくるだろうと思います。

しかし、そういったことを農業政策課がJAと一緒に考えてやっていただきたいと
いうことです。ただ単純に、やりたい人は取ってやってくださいと言うんじゃないで、そ
こまでの――それが政策だと私は思うんですね。市長、その点いかがですか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

このスマート農業につきましては、就任当初より進めてまいりまして、ドローンにつきま
しても実証実験を経て、塩田地区の営農地域では買っていて、実際に現場で役に立っ
ているということもあっておりますが、まだまだ台数的には、やはり今の農作物は適期管理
が鉄則でございますので、そういった観点からすればまだまだ普及が必要だろうというふう
に考えております。

その普及するためにも、そういったドローンを活用したスマート農業のよさというものも
もっと伝えていく必要もあると思いますし、私が務めています九州茶産地協議会の会長とし
て要望に行ったときに、当時、議長でありました田中議員のほうからも副大臣のほうにおっ
しゃっていただいたと思いますけれども、ドローン散布に適する農薬の開発等も、そういつ
たものも商品化されていけば、そういったところで使用の幅が広がれば当然普及につなが
ってくるわけですから、そういった意味でも、いろんな方面にこうしたスマート農業を、少数
精鋭でこの地域の農業を回していく重要な戦略として認知をしていただけるように努力をし
てまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

そこら辺はよろしく願いをしておきたいと思います。

次の質問に行きます。

農業政策についてということで、まず、茶業については、生産、あるいは販売面において、
それぞれの若手の後継者が非常に頑張っておられます。今後はさらなるブランド力、あるい
は販売力の向上というものが求められるというふうに考えるわけですが、市長の今後のうれ
しの茶の振興策について、お考えをお聞きいたしたいというふうに思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

ここ数年、生産者の皆さんの頑張りによりまして、嬉野のお茶は全国茶品評会でも産地賞であったり、釜炒り茶の部においては農林水産大臣賞もいただいているというところでございます。やはりいいものを作る、本当に名実共に日本一のお茶だと言い切れるものを作っていくということがベースになければならないというふうに思っておりますが、近年ではお茶の飲み方、また、器との組合せの中で、嬉野のお茶というものを認知していただくような農家さんであったりとか、茶商さんの取組もなされています。そういったところを支援していきたいというふうに思っておりますし、私自身も大好きな将棋と引っかけ、藤井聡太さんに最初の一手のお茶を飲ませたいという思いから、タイトル戦の誘致にこぎ着けた経緯もござります。

そういった露出を増やしていく、そしてまた、生産の基盤をやっていく、先ほどもお話しした災害で、山間地は本当に大変な状況でございましたけれども、やはりこの時代にあって茶業を守っていくということは、山間地の国土を守っていくことだという位置づけの中で、しっかりと若い人が希望を失わないようですね、復旧、そしてまた、振興策というものができてくるものだというふうに思っておりますので、今後とも様々、いろんな声も聞きながら頑張っていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

お茶の生産者、あるいは販売者、本当に若手の人が頑張っているというふうでございます。茶業青年会あたりがグリーンレタープロジェクトとか一生懸命やって、そして、自分のところのお茶、そして、パッケージを工夫して、それで、手紙としておじいちゃん、おばあちゃんに送るとか、そういったふうなことで非常に好評を博しているというふうに思います。

また、茶時プロジェクトでは、高級感あふれるお茶の提供というかな、そういう空間を提供して、これも非常に話題になっております。

また、お茶屋さんはお茶屋さんでティーバッグ等の研究をなされて、含み茶等も一緒にして頑張っておられますし、水出し用のポットですかね、ああいったものを活用しながら、とにかく一生懸命それなりに若手の茶の生産者、あるいは問屋さん等が努力をしておられます。

しかし、そういう中で、やはりうれしのお茶というこのブランドですよ、高級茶というか、

今後、やはりうれしの茶はおいしいんだ、あるいはいいお茶なんだという一つのブランドが最も大事だろうと思うわけです、いろんな事業を頑張っていかれるときに。そういったときに、さっきおっしゃった全国品評会で産地賞を取る、あるいは農林水産大臣賞を取る、嬉野が取る、これは非常に大事だろうというふうに私も思っておるところであります。

そういう中で、平成11年に全国のお茶の品評会の開催を嬉野市が行いました。もう20年前になるんですかね。多分関係者は私ぐらいしかいないのかな。当時、全国のお茶の生産青年団の団長をやっていたので、私ぐらいしかいないのかなと思うんですが。それから20年たちました。これは今、全国持ち回りで行っていて、大体ずっと順番は決まっているんですね。そういう中で、やはり嬉野も早手を挙げるべきだろうと思いますが、市長、今そこら辺の状況がどうなっているのか、まずお尋ねをいたします。全国品評会の開催地。（「暫時休憩をお願いします」と呼ぶ者あり）

○議長（辻 浩一君）

暫時休憩します。

午前11時13分 休憩

午前11時13分 再開

○議長（辻 浩一君）

再開します。

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

全国茶品評会ですね、私も記録写真で平成11年の様子、若き日の田中議員の姿を確認させていただきましたけれども、あの盛り上がりというものが契機となって、嬉野の今のお茶のブランドというのもできてきたんだろうなということを実感いたしました。

いま一度、こうした活力をこの産地にもたらすためには、そういった開催の提案があれば積極的にチャレンジをしていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

九州、関東、関西、静岡かな、4つの地区で多分これは回していると思うんですね。九州の番になったときにはなるべく早めに手を挙げて、ぜひ嬉野で誘致をしていただきたいということはお願いをしておきたいというふうに思います。

それでは、最後の質問になりますけど、これは先般の農業新聞等に出ておりました。農地の荒廃化を防ぐために林地化をする、そのための計画をつくれば苗木代等の補助を出します

よみたいなことだったんですが、これについて嬉野市はどう対応しておられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（辻 浩一君）

農業政策課長。

○農業政策課長（井上 章君）

お答えいたします。

まず、この林地化に対しましては、農林水産省が受け手がいない農地を計画的に林地化するための支援策ということで、令和4年度の当初予算の中に盛り込まれ、現在、国会で審議をされている途中でございます。

この政策は、令和3年度に創設されました農山漁村振興交付金（最適土地利用対策）の中で、地域ぐるみの話し合いを通じて担い手に集約する農地と集約が困難な農地に仕分けることとなっているところでございます。この中で、集約が困難な農地については粗放的農地利用事業といたしまして、放牧や蜜源作物の作物等に取り組めることとなっており、こうした農地の周辺部を鳥獣の緩衝帯機能として林地化することが新たに盛り込まれているところがございます。

確かに林地化については、受け手がいない農地の荒廃を防ぐためには有効な方法ということで考えておるところでございますが、植林によって隣接する農地が日陰になったり、または落葉等で生育不良を招くことも懸念の材料ということになっておりますので、そういったところは地域の中で十分話し合いを持っていただいて、最適な土地利用計画を策定していただくことが重要というふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

田中政司議員。

○14番（田中政司君）

いずれにしても、荒廃農地といいますか、嬉野市内、いろんなところにいろんな形で有害鳥獣のすまいになっているようなところも見受けられるわけですね。ここら辺は、今後、災害等のいろんな問題があるかと思えます。そのままにしておくよりも植林をしてやったほうがいいんじゃないかとか、いろいろな農地の使い道等があると思えますので、こういう国の制度にとにかく高くアンテナを張っていただいて、使えるような施策等においては嬉野もどんどん手を挙げていただいて、そして、そういう荒廃農地等の解消に少しでもつながるようなやり方というのをぜひやっていただきたいというふうにはお願いはしておきます。

それでは、これで私の一般質問を終わるわけなんですけど、今回、市長の公約の中での質問ということで、あくまでもざっくりとしたところでの質問になりました。今後はこの質問、あるいは政策等を参考に、今の御答弁を参考にしながら、さらに深く質問をしていきたいと

いうふうに思っておりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、今日はこれで終わります。どうもありがとうございました。

○議長（辻 浩一君）

これで田中政司議員の一般質問を終わります。

換気休憩のために、11時25分まで休憩します。

午前11時18分 休憩

午前11時25分 再開

○議長（辻 浩一君）

再開します。

一般質問を続けます。

議席番号4番、阿部愛子議員の発言を許可します。阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

議席番号4番、阿部愛子です。早朝からの傍聴ありがとうございます。私、1月の選挙で市民の皆様から負託を受けてここに立つことができました。市民の皆様と一緒に命と暮らしを守るために頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今、世界での新型コロナウイルスの感染が収まらない中、ロシアがウクライナに侵攻しました。戦争は止まりません。戦いは悲惨な結果しか生まない。日本共産党はロシアのウクライナ侵攻に断固反対します。ロシアの行為を許すことはできません。非核三原則を堅持し憲法9条を持つ日本は、平和を望む他国と連帯して非軍事の人道支援に徹すべきです。嬉野市も非核宣言を掲げています。日本共産党は今各地で募金活動を行っています。ウクライナ支援に御協力をお願いいたします。届け先は国連難民高等弁務官とユニセフです。ありがとうございました。

議長から通告許可をもらいましたので、一般質問に入らせていただきます。

1、吉田公民館へのエレベーター設置について、2、環境行政について、3、学校給食の無償化についてです。

吉田公民館のエレベーター設置について、市長が言われました避難空白ゼロは私も大賛成です。でも、今日明日にはならないので、3階建ての吉田公民館を高齢者が避難所として利用しやすい施設にするためにエレベーター設置をすべきだと考えていますけれども、いかがでしょうか、お願いします。

再質問は質問席から行います。

○議長（辻 浩一君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（村上大祐君）

それでは、阿部愛子議員の質問にお答えをしたいと思います。

吉田公民館へのエレベーター設置についての御質問でございます。これにつきましては同僚の議員の方、いろんな方から要望をたくさん賜りましたし、地域の方からもいろいろと要望をいただきましたので、本格的な検討を行ってきました。

しかしながら、構造上の問題でなかなかエレベーターの設置というのは難しいという判断に至りました。ただ一方で、災害時には避難所として開設をされ高齢者の方も避難をしていただきますので、今年度、椅子式の階段昇降機を2階まで設置して、併せて手すりの設置、1階、2階及びトイレの段差の改修工事というものを完了いたしまして、徐々にでございますけれどもバリアフリー化を進めていくというところでございます。

また、避難所開設時には1階のほうの会議室も避難所として利用するなど工夫をして取り組み、現施設の有効活用を図りたいというふうに考えておるところでございます。

以上、阿部愛子議員の質問に対するお答えとさせていただきますと思います。

○議長（辻 浩一君）

阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

昨日新しい姿の昇降機に乗せていただきました。早速昨日のうちに介護予防講座があったんですね。それで使われたようです。とても喜ばれていたということなので、本当にありがとうございました。1つ進むことができました。

でも、吉田公民館はもう50年過ぎていきますので、あっちこっちが傷んでいます。だけど、今、災害時の避難所になっていますので、どうしてもエレベーターが重要な課題だと思います。

昨年の夏ですけれども、大雨のときに学校の体育館と公民館で100人ぐらい避難されたようです。雨の日大変だったとおっしゃっていました。上がれない人は学校の体育館に行かれたようでした。近くのおばあちゃんですけど、御夫婦で、もう公民館に行くとはやみゅうばいと、あの3階まで行ったぎ、もうちょっときつかったと、上がり下りのもうでけんやったですよと、上がるとはよかいどん、下がるとのもうきつうして、きつうしてとおっしゃったんですね。

昨日私が乗せていただいた昇降機ですけれども、2階まで上がるのに1分かかります。災害時はきっと皆さんがわっと、去年は本当にこんなに来ると思わなかったと公民館長さんが言われていましたので、皆さんやっぱり、もうおうちにいたら不安ではないというので、駆け込みが多かったそうです。

それで、おばあちゃんが、もうそがん行かれんよと言っていました。やっぱり安全で安心な避難所を求められていますので、今後の取組について、どうしてもお聞きしていきたいと思います。お願いします。

今、昇降機がついているんですけれども、すぐにほかのところに避難所ができるわけじゃ

ないんですから、しばらくはここが避難所になると思うんですよ。それで、その昇降機だけではとても、いっぱいにはっと来られたときに、あと車椅子の方とかいらっしゃるときに、なかなかはかがいかないとか、上まで上がれないということがあるので、どうでしょうかということ。再度エレベーターを要求しますという地域の皆さんの意見でした。お願いします。

○議長（辻 浩一君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小笠原啓介君）

お答えをいたします。

今、議員御発言のエレベーターの設置についてでございますけれども、市長が御答弁いたしましたように、以前からエレベーター設置の質問を受けておりました。

エレベーターの設置なんですけれども、詳しく申し上げますと、以前、建築業務の担当をしております職員と現地を確認した経緯がございます。その構造上、古いこともありますけれども、エレベーターを設置するには建物に重要なはりの部分とか、スラブの部分とか、そういったものを壊して設置しなければならないというところもありまして、その工事を行った時点で、古い建物でありますので、そこで耐久性がもたれるかというところで断念をした判断をしました。

それで、やはり議員おっしゃるように、避難所として利用されておりますので、ここは椅子式階段昇降機、一遍に来られたらということではありますけれども、随時順番を守っていただいて昇降機のほうで上がっていただく、それと併せて手すりの工事もしておりますので、階段のところ到手すりを設置して、2階の畳の部屋、それからじゅうたんの部屋がありますけれども、そちらのほうまでは誘導できるようにいたしておりますので、また、1階の会議室とかもまだ空きの状態がありますので、そこも工夫しながら、避難所として利用をしていきたいなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

エレベーターの外付けというのは無理なんですか。

○議長（辻 浩一君）

文化・スポーツ振興課長。

○文化・スポーツ振興課長（小笠原啓介君）

お答えをいたします。

エレベーターの外付けですけれども、やはりエレベーターを外に付けたとした場合に場所

の選定、それからどの位置に付けたら構造上問題がないのか、設置した後にかなり荷重がかかりますので、そういったところも十分に検討・検証をしなければ設置としては難しいのかなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

じゃ、昇降機が付いたのを一步と、いい方向に考えていきます。それは皆さんに御報告をしたいと思います。

次の2つ目ですけど、環境行政について、市内各地で発生が続いている不法投棄についてどのように対応していらっしゃるのか、お伺いしたいです。

○議長（辻 浩一君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

お答えいたします。

不法投棄等についての対応ということですが、小規模なところから申し上げますと、煙草、ペットボトル、空き缶など、道路の側溝などにいわゆるポイ捨てが見受けられる場合がありますが、市民の方の中には自主的な清掃活動を行われている個人・団体がおられます。地域の環境美化に努めていただき、また、市民の皆様のふるさと美化活動等の環境美化対策へ御協力をいただいているところでございます。

そのようなボランティア清掃活動をされている個人や団体様につきましては、本課よりその回収のための、（現物を示す）こういったボランティア袋というのを無償で提供しております。

また、それ以外にテレビなどのリサイクル廃家電製品処理困難物がありますが、年に数回ではありますが、廃棄物監視員、あと環境美化推進員である区長さん等から通報、連絡などを受け、本課で現地を確認して、状況に応じて警察への捜査依頼、あと不法投棄者の特定に努めております。

なお、本課においても不法投棄のパトロールを行っておりますが、頻繁に不法投棄をされている箇所については、区長さんから申請があれば、不法投棄の啓発の、（現物を示す）こういった看板等も提供しております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

畔川内の嬉野下宿線、唐泉橋から済昭園までのところ、途中で鶏舎があったり、海洋クラブという看板があったりする辺りなんですけれども、山から道までの溝が深いんですよ。そこはいつもごみを拾ってくれているボランティアの方がいらっしゃいますけれども、そこは手が入らないし、体も入らないので、ちょっと見てくださと言われてたので、見に行きました。そうすると、家庭ごみがかなり捨てられていました。そして、缶や瓶はもちろんですね。どうにかしてここを、ほかのところは何とかして拾っているけれどもここが拾えないので、何とかならないかしらという相談がありました。それで、私も気をつけて見ていたんですけども、本当に小さいその30センチ、30センチぐらいのが確かにあります。だけれども、もうカビが生えているのか、コケが生えているのか、何て書いてあるのか分からないというのがいっぱいあるんですよ。だから、今、工事をいっぱいしていますけれども、その黄色いのに、大きい、このぐらい、50センチぐらい大きいのが立っていますよね、あれは車で見てもすぐ分かるようになっている。それで、その畔川内のところはちょっと暗いので、捨てやすいのではないかと思います。

それで、そこに大きい看板を、はっとするような看板を付けてもらえないかということが一つです。お願いします。

○議長（辻 浩一君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

お答えいたします。

その畔川内から五町田に抜ける道の近くの谷に捨ててあるということですね。先ほど説明しましたが、こういった看板等を（「1個立っていました」と呼ぶ者あり）あ、1個しか立っていないんですか。ああ、そういうことですか。

地区の皆様で、何か赤い鳥居を付けてとかいう取組をされているところもあります。それで、あと地区のコミュニティで大きな看板を作製して、設置されているところもあります。

それ以外で、ちょっともうやっぱり地区の皆様でなかなか処理というか、ごみ拾いが困難というところがあれば、昨年6月にですけど、不法投棄された廃棄物の撤去作業を、県の産業資源循環協会の青年部の方がボランティアで令和2年に塩田地区の塩吹で作業に当たっていただいたこともありますので、そちらのほうに働きかけをしていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

佐賀に行く途中に田んぼの中にあるんですよ。捨てるなど書いてある大きい看板が、黄色くて目立つのが。ああいうのはどこで作ってもらえるのでしょうか。

そしてもう一つは、そのボランティアをやっている方が、つい最近まで自分で、自前で袋を使っていたと、やっとボランティアの袋をもらえるようになりましたとおっしゃいました。もし私がボランティアで使いたいですけど、どこに言ったらいいですかというのと、どういうふうにしてもらえますかというのと、どういうふうに処理をしたらいいんですかというのを教えてください。

○議長（辻 浩一君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

看板の作製ということでございますけど、先ほど言われた黄色くて大きい看板というのが、私が確認していませんので、現地をまず確認して、どういったところで作れるか、まず確認させてください。

処理についてですけど、先ほど申しましたけど、ボランティアの県の産業資源循環協会青年部にもう一回働きかけをして、そういった不法投棄がある地区について、回収をしてもらうようお願いしていきたいと思っております。

それから、ごみ袋はどこでもらえるかということですけど、環境下水道課のほうに申請書がありますので、そこに申請をされて、団体、個人さんでもよろしいですけど、（現物を示す）ごみ袋はこれになりますけど、無償で提供していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

建設部長。

○建設部長（井上元昭君）

追加してお答えをいたします。

議員が御発言のように、看板というのも抑止力になっていると思います。先ほど課長のほうが嬉野のごみ捨て禁止の看板については説明したとおりでございますので、その市町によって看板の種類が違って来るんだろうと思っております。

そういった中、嬉野市は嬉野市環境基本条例、あるいは嬉野市環境美化条例というのを設置しております。その中に市民の役割であったりとか、ポイ捨て禁止ということで明記しております。というのが、そういったことをすることで、やはり啓発を行うことがやっぱり一番大事なんだろうと思っております。市民の方がポイ捨てをしているというわけではないんですけれども、どうしても啓発活動というのが必要になってくると思いますので、今もそうした啓発活動を行っておりますけれども、さらに啓発活動を行いながら、ポイ捨てが、不法投棄がなくなるように進めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

ごみはポイ捨てのごみだけじゃないので、お伺いしたいんですけども、嬉野の立岩展望台に行く途中なんですけれども、灌木がもう道のほうに刺さっている感じのところがあるんです。あれはごみにはならないんですか。

○議長（辻 浩一君）

建設部長。

○建設部長（井上元昭君）

お答えをいたします。

木は、かぶり木だと思います。これは個人さんそれぞれの所有の分であったりとか、市道の近くは市が所有しているんじゃないくて、自然に生えた木というものもあるかと思います。基本的に、そういったかぶり木については個人のほうで対応していただくというふうになっておりますので、倒れてしまって倒木になれば、ごみというか、廃棄物というか、そういった形になると思いますけれども、まだ倒れていない状態であれば、市が直接的にそれを伐採して片づけるというのはなかなかできないような状況でございます。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

昨日、立岩展望台のほうまで祐徳バスが上がったようなんです。きっと嬉野の新幹線に向けてのまちづくりというところで、そこが観光の地になるという予定で下見に行かれたのかもしれませんが、それで、運転手さんが言うには、もうちょっと車がかさがさで動かれんごたつたと。それで、運転手さんに、そいぎんあんた、もう我が会社に言いんしゃいと、言いしゃつたらしいんですけども、そいどんちょっと、あんたも言うてくれんねということなので、これは足して質問したいと思います。（「ちょっと暫時休憩を」と呼ぶ者あり）

○議長（辻 浩一君）

暫時休憩します。

午前11時48分 休憩

午前11時49分 再開

○議長（辻 浩一君）

再開します。

建設部長。

○建設部長（井上元昭君）

お答えをいたします。

市道等のかぶり木につきましては、かぶり木によってバスが通れないという御質問だと思います。確かにそういうところもございますので、その地区を管理されている行政区の区長さんを通じて、そういった案件がございますので、かぶり木について対応できないでしょうかというふうなお話は常々させていただいているところです。

やっぱりしかしながら、費用的なものがかかりますので、なかなかかぶり木の伐採ができていないような状況でございます。

市が、先ほども申しましたように、民間の木を直接切っていくというのは、なかなかできないような状況でございますので、今後、そういったことも課題の一つであると思っております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

もう山の持ち主がよく分からないというところもあるので、どうぞそのところはよろしく検討していただきたいと思います。

あと、3番目の給食無償化についてお伺いします。

憲法第26条第2項に基づき、児童・生徒に学校給食無償化に取り組むべきと考えますがいかがでしょうか、お願いします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

憲法第26条第2項と、これは子どもが教育を等しく受ける権利と、また、保護者がこの教育を子女、子女という表現が憲法そのまま、原文ですけれども、ちょっと時代に合わないような気がいたしますけれども、子女に対して教育を受けさせる権利について定めた条項であると理解をしております。

その後段の中に、教育は無償とすという一文が入っていますので、それを根拠に給食も全て学校にかかるものは無料化したらどうかということの御提案だと思います。

これについては憲法裁判で争われた事例がございまして、憲法学の入門書にも出てくる有名な判例でございますけれども、そういったところで、この26条のその後段の規定をもって教科書とか、そういった学校にかかる費用に関しては無償化の対象ではないという判決が出ております。あくまでその授業をすること、授業料に該当する部分についてのこの無償化をここに明記をしているものであります。教科書とかにつきましては、国の法律に基づいてこの無償ということでは定められております。そういったところの憲法第26条の、まずは論点を

整理させていただきたいというふうに思っております。

その上で、給食費の無償化の提案につきましても、これは様々保護者の負担軽減というものは私ども不断に取り組んでいかねばならない課題だというふうに認識をしておりますけれども、安心・安全の給食、そしてまた、近年のアレルギーの対応であったりとか、また、老朽化する給食センターを修繕する、そういったところも含めて様々取り組まなければならないことがございますので、今後、いろんな方とそういったところを協議しながら、この負担軽減については進めてまいりたいと思いますが、一足飛びに無償化というわけにはいかないのではないかというふうに思っております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

市長の挨拶にありましたね。子どもは国の宝だと、市の財産だと。私もそう思います。子どもたちの食育は、やっぱり宝を育てる大切なものだと考えます。頭を支えるのは体、その体をつくるのは食育だと私は思いますので、教育と食育は一体なものと考えています。

日本ではもう30年間お給料が上がらないと、消費税は上がる、物価は上がる、コロナ禍で仕事がなくなった人もいます。子どもたちは大人の話をよく聞いているんです。給食費を払える人も、払えない人も、無償化したら子どもたちが給食費の心配をしなくて食事が食べられます。

それで、佐賀県では今、給食費を無償化しているところはどこかにあるんでしょうか、あったら教えてください。全部無償化じゃないとは思いますが。

○議長（辻 浩一君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

佐賀県内で給食費を完全に無償化している町は6町ございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

私が聞いているのは隣の太良とか、あとは白石とか、江北とか、神埼はやっていますよというのを聞きました。最少年度と最終年度をやるとかいう形もあると思います。全部をやるというのじゃなくて、最初はそういうふうにしてやるという方法もあると思います。

そして、子育てしやすい市になれば人口が増えてくると思います。そして、嬉野が楽しく

なる、よくなる、にぎやかになるというところにもつながってくるのではないかと思いますので、何とか取り組んでもらいたいと思います。

そして、移住されたお母さんが嬉野の給食は無償化じゃなかったのねと、あると思って来たのよとおっしゃる方がいらっしゃいましたので、何とか皆さんの要求をお願いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

どういった、誰に。

○4番（阿部愛子君）続

失礼いたしました。この先考えていらっしゃるのでしょうかということです。無償化をまだ検討していらっしゃる。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

この給食費も含めたところの、保護者さんの子どもの教育を受けてもらうに当たっての負担軽減というものは、やはり不断に取り組んでいく必要があるかなと思っております。

嬉野市におきましても、うまかもん給食ということで市内産の農産物を、これは農業政策課の予算の中で計上をしておりますけれども、こうした物を給食食材として提供することで実質的な負担軽減というものも行ってきておるところでございます。

この給食だけではなくて、学用品とか、そういったところも含めて、困窮世帯への支援とか、きめ細やかにこの負担軽減に全体として取り組んでいきたいと思っておりますし、やはりその中でも、この食育という話を議員もしていただきましたけれども、そのメニューの工夫、そういったところで、郷土食であったりとか、また、そういった市内産の農産物への理解を深めるような仕掛け等も、栄養士さんは大変工夫をいただいているというふうに思っておりますので、こうしたサービスをより磨き上げていくためにも努力をしてみたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

阿部愛子議員。

○4番（阿部愛子君）

じゃ、給食費が少し安くなるというようなこともあるということですか。それはない。うまかもんの、そういう提供してもらったりすると、材料費が安くなるか、そういうことはない（「安くなります」と呼ぶ者あり）安くなります。はい、ありがとうございます。少しでも家庭に負担がないようにしていただきたいと思っております。

ありがとうございました。これで私の質問を終わらせていただきます。

○議長（辻 浩一君）

これで阿部愛子議員の一般質問を終わります。

議事の途中ですが、ここで13時まで休憩いたします。

午前11時58分 休憩

午後 1 時 再開

○議長（辻 浩一君）

再開します。

一般質問を続けます。

議席番号15番、梶原睦也議員の発言を許可します。梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

皆さんこんにちは。議席番号15番、公明党の梶原でございます。傍聴席の皆様におかれましては、傍聴、誠にありがとうございます。

昨夜の東北の大地震、大変に驚きました。今回の被害に遭われた皆様に対してお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方に対して心よりお悔やみを申し上げます。

さて、先般の嬉野市議会議員選挙におきまして、5期目の当選をさせていただくことができました。初心を忘れず、さらなる研さんに励み、市民の皆様の幸福のため、また、嬉野市の発展のために、より一層尽力をしてまいる所存でございますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、ロシアによるウクライナ侵略でございますが、まずもって、負傷された方並びに被災者に対してお見舞いを申し上げるとともに、不幸にもお亡くなりになられた方に対して心よりお悔やみを申し上げます。

誰もが心を痛めているロシアによるウクライナ侵略であります。連日の報道によるウクライナ国内の惨状を見るにつけ、心が痛みます。特に、戦地における社会的弱者の子どもや女性、高齢者が目を覆うような悲惨な目に遭っている姿には涙が止まりません。なぜ何の罪もない一般市民がこんな目に遭わなければならないのでしょうか。

国際社会によるロシアへの制裁は当然ながら、常任理事国でもあるロシアがこんな非道な侵略戦争を起こしたことを、国連は決して許してはなりません。早急に国連改革に取り組み、国連主導の停戦要求並びに不戦実現のシステムを構築していただきたいとお願いいたします。

いずれにいたしましても、一日も早くこの憎むべき侵略戦争が終結し、ウクライナ国民に平穏な日常が戻ってくることを祈るばかりでございます。

それでは、議長の許可をいただきましたので、通告書に従い質問をさせていただきます。

今回は、嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、ごみ処理について、通学路の安全確保についての3点を質問させていただきます。

まず最初に、まち・ひと・しごと創生総合戦略についてですが、その目的とするところは、急速な少子高齢化への対策を講じることで人口減少に歯止めをかけるとともに、大都市への一極集中を是正することです。その上で、市民が安心して出産や育児に臨めるような制度の整備、地域における社会生活インフラの維持、雇用創出、さらには国との連携などです。

本市におきまして、2015年、平成27年に第1期嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定されました。2020年、令和2年には、第1期からさらに活性化を推進するために、第2期嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定されております。本市におきましては、現在、2018年、平成30年に第2次嬉野市総合計画の下に行政が執行されております。総合計画が創生総合戦略の上位に位置づけられることは理解できますが、両計画の関係性はどうなっているのか、質問をさせていただきます。

以上、壇上からの質問とし、あとの質問は質問席にて行います。

○議長（辻 浩一君）

ただいまの質問に対し答弁を求めます。市長。

○市長（村上大祐君）

それでは、梶原睦也議員の質問にお答えをしたいと思います。

このまち・ひと・しごと創生総合戦略と嬉野市総合計画との関連についてのお尋ねでございます。

まず、第2期嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、本市のまちづくりの基礎となる第2次嬉野市総合計画の上位計画ということで位置づけられております。特に、まち・ひと・しごと創生の分野に焦点を当て、その好循環と確立を目指し、人口減少社会に力強く立ち向かい、自分のまちに愛着と誇りを持てるようなまちづくりを進めるとともに、地域内外との交流を促進し、交流人口の増加を図るための多様な施策事業を重点的かつ分野横断的に取り組む計画としての位置づけでございます。

以上、梶原睦也議員の質問に対するお答えとしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

確認ですけど、私聞き間違ったかもしれませんが、総合計画が総合戦略の上位に位置づけられるということで今発言されたんですかね。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

もう一度申し上げます。

第2期嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、本市のまちづくりの基礎となる第2次嬉野市総合計画を上位計画とすると。ですので、嬉野市総合計画のほうが上位計画ということになります。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。私の聞き間違いでした。

そしたら、この総合戦略について質問をさせていただきます。

先ほど壇上で言いましたように、総合戦略の策定につきましては、人口減少、少子高齢化、活力ある嬉野市をつくるために制定されたものと理解しております。ここで核になるのが人口でございます、この辺りを質問させていただきたいと思います。

2015年、平成27年の嬉野市の人口ビジョンにおきましては、2060年の将来人口について、およそ2万人を維持するとなっております。また、昨年度の民間データでございますけれども、嬉野市の将来推計人口は2035年時点で2万1,000人と。2045年に1万8,000人となっております。今年1月現在の嬉野市の人口でございますけど、2万5,310人という現状がございます。

お聞きしたいのが、嬉野市の人口ビジョンが2060年時点で人口およそ2万人を維持したいと。それはいいんですけども、この目標の立て方として、理想が目標なのか、現実的な目標なのかというところが大事になってくるんじゃないかなと思うんですけども、この人口ビジョンは2015年に制定されていますので、今7年たっています。この時点で、先ほど言いました部分を勘案して、およそ2万人を維持すると。この目標に対して今後行政を進めていけるのか、これについてはまた見直し等も考えられるのか、この点についてお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

このまち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、私も民間にありました時代に委員の一人として策定に携わらせていただきました。

その中で、このまま手をこまねいていると、もっと人口減少が進んでいくということでありますので、そういったところで総合戦略に沿った施策を様々展開していく中で、まちの活力を維持するという事でこの目標値を定めたというふうに承知をしております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

そしたら、今の市長の答弁でいきますと、2060年時点で嬉野市の人口はおよそ2万人を維持するという前提に計画等を進めているということで理解してよろしいですね。

先ほどお話がありましたように、以前、日本創成会議におきまして消滅可能性都市というような話が出てきまして、嬉野もその消滅可能性都市の中に入っていたんですけれども、私もこれは非常に腹立たしい形で見せていただいたんですけれども、先ほど市長がおっしゃったように、何もしなければこういうふうになりますよということだと思っておりますよね。

だから、今こういった総合計画、また、まち・ひと・しごと創生総合戦略の質問をさせていただいていますが、この計画等をしっかりやっていくことによって、先ほどおっしゃった、2060年時点でおおよそ2万人を維持するというのを、理想じゃなくて、これに向かってやっていく、その様々な計画と捉えてよろしいのでしょうか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

消滅可能性都市というのが、ありがたくないことに嬉野市もその中の一つということで数えられてしまっているという現実ではありますが、手をこまねていることなく、いろんな積極的な施策展開をする中でそこから抜け出していくという考え方下でありますので、議員の御発言のとおりだというふうに認識をしております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

それを前提として、今から質問をさせていただきます。

先ほど言いましたように、人口というのが非常に大事だということでございます。人口についての考え方としては、自然増、自然減、または社会増、社会減とございます。

まず、自然増、自然減の部分でいけば、年間の死亡数と出生数の差が増減ということでもあります。ここ数年でいいですけど、小さな数字はいいんですけれども、嬉野市は今現在どういうふうな状況になっているのか、分かればお教えいただきたいと思っております。

○議長（辻 浩一君）

企画政策課長。

○企画政策課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

3月31日現在ということで数年間調べておりますけれども、平成31年3月31日から令和2年3月31日までの人口がマイナスの281人、令和2年3月31日から令和3年3月31日までの人口でマイナスの307人、令和3年3月31日から令和3年11月30日現在としていますが、これはまだ年度の途中ではありますけれども、マイナス157人というふうな具合で推移しております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

最後のマイナス157人というのは、ちょっと抑えてきたのかなというふうに思いますけれども、いずれにしても自然減ですよ。

今後どういうふうに推移していくのかという推測はされているのか、この点についてお伺いします。

○議長（辻 浩一君）

企画政策課長。

○企画政策課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

議員おっしゃられたのが、将来的、長期的な見通しということで、これが国立社会保障・人口問題研究所のデータのことを言われたと思います。何もしなければ2060年は1万4,955人になるということのようですけれども、総合戦略の対策を取りながら、自然減は起こるけれども、ぎりぎりのところで踏みとどまるというふうなことでプランを立てておりますけれども、すみません、一、二年先の人口推計というところまではまだ計算しておりません。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

どっちにしても、自然減というのは現実に継続しているわけですから、この自然減を止めるということも一つの対策じゃないかなと思います。高齢者の方が亡くなっていく分に関しては致し方ないんですけれども、出生率を上げていくという部分で自然減は止めることができると考えます。

そういったことで、いろいろな対策をされていると思いますけど、自然減を止める対策として主なものがあれば、どういうことをやっているかというのをお聞きしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

企画政策課長。

○企画政策課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

私のほうが担当課ではあるということですがけれども、移住対策、空き家対策等を今やってきております。それとあと、議員もお持ちと思いますけれども、その中でも観光客とか交流人口を増やすという取組とか、その辺りのところをいろいろやっておるところです。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

これは様々な施策があるんですけれども、例えば、出産年齢の基準である15歳から49歳の女性の方、子どもを産む世代を何とかここにとどめておかなきゃいけないと、ちょっと言い方はまずいかもしれませんけれども、それで子どもを産んでいただくということでいけば、この世代の方の市外への流出、ここら辺について何かの対策を打たないといけないと思うんですけど、何かいいそういった対策を——子どもを産む15歳から49歳までの女性の市外流出を止める対策というのが必要だと思うんですけど、そこら辺りについてはいかがでしょうか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

議員御指摘のとおり、人口の再生産が行われるには、やはりそういった若年の女性人口の流出をいかに食い止めるかというところが鍵であるというのが定説でございます。

そういったところでございますので、私どもとしては女性活躍推進というのを近年の市政の目玉に据えたのも、まさに女性が住み続けたい、そして、新たに住みたいと思えるまちを目指すことで、若年の女性人口の流出を食い止めるだけではなくて、むしろ増やしていくという考え方の下で、市政のサービスの充実、また、様々な社会参画の機会の創出というものを図ってまいりたい、それがまち全体の活力につながってくるということで取り組ませていただいております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

この部分については本当に様々な施策をされているわけですから、私が言いたいのは、そういった基本的な部分をきちっと——先ほど言いました2060年の目標もありますし、そういったことを検証しながらやっていかないといけないという部分で今回質問させていた

だいております。

自然減はそういうことですが、社会増、社会減についても同じことだとは思いますが、具体的な施策が総合戦略の中に組み込まれているのがこの社会増に対する取組ということで私は捉えているんですけども、それでよろしいでしょうか。

○議長（辻 浩一君）

企画政策課長。

○企画政策課長（小池和彦君）

お答えします。

もう一回いいですか、すみません。（「もちろん総合戦略を今回メインで質問しているんですけども、その中で、自然減に関しては先ほどおっしゃったような対策もあるということではありますが、例えば、社会インフラの整備とか農業の再生とかいうのも含めてですけども、そこら辺が社会増、社会減という捉え方として捉えていいのかと。要するに、人口対策の一つとして捉えていいのかということをお聞きしております」と呼ぶ者あり）

○議長（辻 浩一君）

総合戦略推進部長。

○総合戦略推進部長（三根竹久君）

お答えをいたします。

このまち・ひと・しごと創生総合戦略でございますけれども、そもそもこの戦略をつくっている目的というのが、まち・ひと・しごとですけれども、仕事が人を呼ぶと。人が仕事を呼び込む、そういった好循環を確立しようということで、それによって人の流れを生み出して、好循環を支えるまちに活力を取り戻すというのが目的でございます、これによって加速度的に進む人口減少に歯止めをかけるということで、様々な基本目標、嬉野市で働きたい仕事をつくるとか、そういったものの目標値を定めているところでございます。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。個別でいけばいろいろ質問もしたいんですけど、今日はあくまでも全体的な質問ということで、すみません、何か変な質問になっているかもしれませんが、よろしく願いいたします。

人口を流出させないための施策ということでいろいろ、人口流出とともに、人口流入ですよ。そういったことを具体的に並べられて数値目標まで出してあるのがこの総合戦略でありますけれども、その中で私が言いたいの、基本的には人に視点を当てるということだと思っております。そういった意味で、福祉政策でずっと私もいろいろ要望等もさせていただ

いて、非常に福祉政策というのは、人を呼ぶ、また、ここに住んでいる方をとどめる大きな施策だなど思っているんですよ。先ほど給食費の無償化とかも出ておりましたけれども、私は嬉野市の子どもたちの医療費の無償化をずっと取り組ませていただいて、今、高校生までの医療費無償化、これは非常に喜ばれております。

こういった部分でいけば、福祉施策の充実というのは非常に人を呼ぶ、また、人を出さない、よそよりも地元でそういった個人個人を守るような制度があるというのは、定住に対しては非常に大きなウエイトを占めていると思うんですよ。もちろんほかの定住対策、また、仕事の活性化とか企業誘致とかありますけれども、それも大事なんですけれども、ずっと言わせていただいているのがその部分で、焦点を絞って今までさせていただいたんですけれども、市長はそこら辺りの捉え方はどのようにお考えでしょうか。（「ごめんなさい、ちょっと」と呼ぶ者あり）

要するに、全て大事だけれども、福祉施策に対する取組というのをどう考えられているかというか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

福祉というところで、嬉野市が発足以来、人に優しいまちづくりというものを全体的な市政の推進の軸として据えてきたこととございます。

そういう中で、高齢者福祉というところでは、住み慣れたまちで住み続けるということを応援する、それがひいては、施設とかに引き取られてよそに行ったりとかしないし、長くこの生活で生きることができれば、自然減の進行を少しでも食い止めるというような一面もあると思いますし、また、福祉というものはやはり人手が要ります。それが仕事を生むという一面もありますから、若年人口のつなぎ止めにもなってくるのではないかと考えておりますので、医療の充実と併せて、やはり福祉の充実というものも嬉野市の人に優しいまちづくりの中では非常に重要になってくるのではないかとこのように考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

またそこら辺については個別事項で質問、提案もさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

続いて、この総合戦略の中で、K P I、昨日、この総合戦略の検証シートも頂きましたけれども、中身についてやっていたら時間が幾らあっても足りませんので、先ほど言いました

ように、今日は大きな質問とさせていただきます。

K P I の設定値についての考え方についてお伺いしたいと思います。

また、もう一点は、P D C A サイクルをどういうふうに回していくのか、そこら辺の具体的な取組についてお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

企画政策課長。

○企画政策課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

総合戦略のK P I については、4つの基本目標の中のそれぞれの分野目標ごとに設定をしております。基本的には、計画の最終年度、令和6年度に達成すべき数値目標としております。

計画2年目の現状では、既に数値目標達成のものから未達成のものまでいろいろありますけれども、特に今回、令和2年度の検証を行ったところなんですけれども、やはり新型コロナウイルスの影響で、K P I を観光客数とかいうふうな数値目標を設定しているところについては半分にも及んでいないという結果が出ております。

K P I の取組については、そのための具体的な施策を挙げて、議員おっしゃられたようなP D C A サイクル、プラン・ドゥ・チェック・アクションというものです。それをもって実施しております。これは各課で数値目標達成のために随時努力をしているということになります。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。P D C A サイクル、いろいろ言えば切りがないので、これぐらいにしておきますけれども、そういったP D C A サイクルをしっかり回してやっているということで理解させていただきました。

先ほどおっしゃったように、これはずっと中を見せていただいたら、コロナ禍で相当数値が落ちていますよね。何でこんなに落ちているのかなと思って見ていたんですけど、やっぱり全部新型コロナウイルスに影響するということです。

この検証シートですけれども、この中で、A判定をされている分に関してはいいんですけれども、B判定とか、いろいろな意見が、D判定まであるんですけれども、こういった判定が出た分に関してはどのように対応されているのか、お伺いしたいと思います。（「ちょっと休憩を」と呼ぶ者あり）

○議長（辻 浩一君）

暫時休憩します。

午後 1 時 27 分 休憩

午後 1 時 27 分 再開

○議長（辻 浩一君）

再開します。

企画政策課長。

○企画政策課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

この判定の評価ということで、Aが計画的に事業実施、または実施済み、Bが一部事業実施、Cが事業検討、また準備段階、それと、Dが未着手、または事業中止、事業見直しが必要というふうな段階になっております。

Aのほうは実施をしている途中ということで、BとCも一部実施とか準備段階というふうなことになりますけど、Dについては事業自体を見直す必要があるというふうなことで対応していかなければならないと思っております。

この計画についても毎年見直しをしておりますので、実は今日も午前中、この総合戦略の会議がっております。そのようなことで見直しをしながら進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

当然そうされていると思うんですけども、こういった判定で、今後の対応というのもここに書いてありますので、各課で持ち寄ってしっかりされているということで理解してよろしいですね。

○議長（辻 浩一君）

企画政策課長。

○企画政策課長（小池和彦君）

議員おっしゃるとおり、各課で見直しをしているというふうなことになります。

議員が提案されていた不妊とか不育とかいう事柄も、今度、国で医療費が制度化されたというふうなことで、その分については見直しをしまして、今回、総合戦略のほうから外すようなことも行っております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

じゃ、次に行きます。

今回、第1期総合戦略から第2期総合戦略となったわけでありませうけれども、この違いというのが、分野横断的取組みの基本目標①から③に反映されているというふうには、この違いはそこを捉えたらいいんでしょうか。この点についてお伺いします。

○議長（辻 浩一君）

企画政策課長。

○企画政策課長（小池和彦君）

お答えをいたします。

これは総合計画もそうなんですけれども、1つの課だけで対応できるものではない、総合的に全課にわたって取り組まなければならないというふうな事業もありますので、その分を分野横断的な取組ということで設定しております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。もちろん総合計画と連携されての運営ということですね。第1期のときにはこの項目がなかったものですから、この部分が新たに今回付け加えてあったということで、この点について質問させていただきます。

分野横断的取組みの①ということで、先ほどの総合戦略の分と一緒にですね、多彩な嬉野市の魅力を発信するというところで、シティプロモーションとかいろいろありますけれども、この多彩な嬉野市の魅力を発信するという部分については、主な、これはというのがあれば教えていただきたいんですが。

○議長（辻 浩一君）

総合戦略推進部長。

○総合戦略推進部長（三根竹久君）

お答えいたします。

ここに記載のとおり、シティプロモーション事業、そういったものについて、先ほどは議員のほうから第1期にはこれがなかった、全部が付け加えられたということですけど、1期のときも分野横断的取組みという記載はあったかと思ひます。今回、取組み②の女性が輝くまちづくりの推進というのと、取組み③の中でのDXの推進、この2項目を追加しております。

1項目めの多彩な嬉野市の魅力の発信ということですが、主な事業としては当然、広報・広聴課でやっておりますシティプロモーション事業などが挙げられると言えます。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。

そしたら、次の横断的取組み②の今度新たにということで、最初の①の部分は私も気づかなかったんですけども、この②の部分の多様な人材が嬉野市で活躍する、先ほどの質問の中でも出ていたので、大体のことは分かっています。女性活躍の部分とかですね。

そういう中で、これは当たるかどうか分かりませんが、産官学の連携といったところからの人材の活用とか、そういったこともここに入るのか。また、市役所の人材育成とか、そこら辺もここに入ってくるのかどうか、その点についてお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

総合戦略推進部長。

○総合戦略推進部長（三根竹久君）

ここの分野横断的取組みの②の中では、嬉野市で活躍する人材の育成ということで、その中にも女性が輝くまちづくりの推進とか、コミュニティの強化とか、そういったものが含まれておりますけれども、まず、この総合戦略の策定に当たっては、先ほど言われた産官学金労言士から委員を1名ずつ任命させていただいて、こちらのほうの計画、総合戦略のほうを策定しているところです。

女性が輝くまちづくりの推進の中では、今年度、セッションという形で、商店街とか農業とかそういった分野で活躍されている女性とかも当然なんですけれども、歌手をされているとか、アロマセラピーをされているとか、嬉野でいろんな分野で活躍されている女性の方たちを集めてのセッションを行って、嬉野でこういったものをしていいじゃないかとか、私たちでは思いつかないようなアイデアなんかも——そういった女性の方たちの人材育成等にも努めているところでございます。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。

その中で数点、私が勝手に思っていることかもしれませんが、今、観光戦略統括監とか来ていただいたりとか、前は県庁のほうから福祉部長に来ていただいていた。そういう専門的な部分を持った方、人材育成というか、専門分野の活用とかに関しても、この多様な人材が嬉野市で活躍するという部分に当たるのか、そこをお聞きしたかったんですけど。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

私の組織運営の考え方としては、外部のアイデア、創意工夫というものも入れていくということで、県庁から来ていただきました部長さんからはデジタルトランスフォーメーション、DX改革の魂をいただきましたし、今、近藤統括監も観光の今後10年の新たな戦略策定に、それから、新幹線開業の歴史的な瞬間のために準備を進めていただいております。

いろんな人材に活躍していただくというのは私の考え方としてはあるんですけども、ここでいう多様な人材というところには、先ほどの女性活躍であったりとか、また、障がい者の方、あとは外国人の居住者の方も最近は随分増えてきているというような現状でもございます。また、性的少数者ということもありまして、先日、パートナーシップ協定を佐賀県のほうとも嬉野市は結ばせていただきましたけれども、そういった多様な人が本当に自分らしく輝けるまちを目指すという意味でのここでの記載ではないかというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。とにかく多様な人材が嬉野市で活躍する、人に焦点を当てた非常に大事な施策だと思っております。女性もですけど、障がい者とか、外国人の方とか、本当に幅広い形で人に焦点を当てた施策だなと。ここは今後力を入れてやってきちっといただきたいと思っております。

では、最後の取組み③の新しい時代の流れを嬉野市の力にするということで、これはSociety 5.0、DX、デジタルトランスフォーメーション、いつも言われていますけれども、ここら辺がこの分に当たるのかなと思うんですけど、そういうふうに捉えてよろしいでしょうか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

この総合戦略の目指す方向性が、SDGsという言葉が出てくるずっと前でありましたけど、持続可能なまちを目指していくということに位置づけられていると、重なる部分があるのかなと思います。その中で、デジタルトランスフォーメーションも持続可能なまち、少数精鋭で、地域であったりとか市役所組織を回していく、それから、市民に質の高いサービスを提供するためにも必要なことだと思っておりますので、位置づけとしては議員の御発言の

とおりになるかというふうに思っております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。

そのDXの分でいけば、先ほども話がありましたけど、例えば、いろいろデジタル化していくというのは非常に今後大事な、その段階に入ったということだと思うんです。Society5.0というのはそういうことですので、次の段階に入ったと。ここら辺のところは非常に難しく、横文字ばかり並んで難しいんですけども、何のためにあるかといったら、当然一人一人のためにあるわけですね。ドローンの話も出てきていましたけれども、今後活用していく、その中の一つだと思うんですけども、使い方を間違えれば、今回の戦争みたいに戦争の武器としても使えると。

だから、その使い方というのを、本当に一人一人の幸せのために使っていくDXの考え方というのが、ここを絶対間違わないようにしていかないと、技術だけ先行して行って、人が後追いついてくるような形には絶対ならんようお願いしたいと思うんですけど、市長いかがでしょうか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

デジタル改革を進めていく中で、どうしてもこのデジタル技術に親しみのない世代であったり、そういった方が一定数いらっしゃるということで承知をしております。ただ、これはいろんなところで私もお話をするのが、デジタル改革を進めることイコールそういった方を切り捨てる施策を意味するわけではないということは強調させていただいているところでございます。

例えば、市民の窓口で、佐賀県で初めて私どもはオンライン手続というものを導入させていただいていますけれども、使えない人はそれを使えないじゃないかと言われるかもしれませんが、10人に1人でもオンライン手続に回っていただければ、その分、窓口の混雑、待ち時間というものも少なくなっていく。そうなれば、デジタルに親しみのない方への接客対応等も十分時間をかけて丁寧にできるという一面がございますので、そういったところはぜひ誰一人取り残さないという理念の下に行政サービスを展開していく、そういう延長線上にデジタル改革はあると理解をしていただければというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。

既に市長が言われていますが、SDGsの考え方、ここら辺につながってくるんでありますけれども、もう一点の分についてSDGsの部分を、以前このことについて中身は具体的に私も提案させていただいておりますので、その中身については今回は省きまして、SDGsの理念を反映させていくというのが今後大事になってくるんじゃないかなと思っております。

SDGsは、温暖化とかCO₂削減とかそういったことの中からも言われているように、SDGsはすぐそこを想像しますけれども、それも非常に大事なことでありますけど、今回、ウクライナの危機によって、エネルギー危機に瀕していると。こういった部分でもSDGsの考え方というのは本当に今後大事になってくるというふうに思います。そういう中で、先日でしたか、小水力発電の話も出てきていましたけれども、自治体においてもそういった取組を今後やっていかなければいけないんじゃないかなと思っております。

ここら辺についての市長の考え方、要するに、全課にわたってのSDGsをどういうふうにするかというか、そこら辺についてお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

SDGs、17の目標がありますけれども、実は17の目標を一つ一つばらばらにしていくと、市役所のどこかの課がやらなきゃならない仕事に突き当たるような仕組みになっております。

そういった中で、我々の最上位計画でもあります総合計画、今度は後期のところに入っていきますけれども、その中ではSDGsのアイコンをそこに分かりやすいように明示することで、市民であったり、また、私ども市役所職員のほうも、自分のやっている業務の中に、自分は今17の目標のうち何を指してやっているのかというところを意識づけながら業務に当たるような仕掛けにしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

以前、私、SDGsの質問をさせていただいて、今のアイコンについては第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂版のところに入れさせていただいております。今度、後期総

合計画の中にもその分を入れていただくということで、当然のことだと思うんですけれども、今理解したところでございます。

そういう中で、今後、SDG sを取り組まない自治体は遅れていくというか、SDG sの理念を取り組むのは当たり前ということになってくると思うんですけれども、先ほど市長が課の中でどこかにはSDG sの17の目標値が入っていくということはおっしゃいましたが、そういうことでいけば、このSDG sというのをきちっと位置づけするためにも、SDG s推進本部みたいな、SDG sに特化した一つの部門というのが今後必要になってくるんじゃないかなと思うんですけど、市長いかがでしょうか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

SDG sの専門部署ということでもあります。どういうふうな組織体で想定をされているのかというところが、私が今御提案いただいたばかりですので、返答に困るところが正直あるんですけれども、ただ、先ほど申し上げましたように、全ての市の業務は恐らく突き詰めればSDG sに行き着くんだらうというふうに思っていますので、これは職員の意識づけだと思っていますし、SDG sの掲げる理想を達成するために私たちは仕事をしているという意識づけをいろんな場面でしていくことから始めて、必要であればそういった組織体というものも考えてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

先ほど、第2次総合計画の基本計画の折り返しで、今年度この計画が策定されると思いますけど、その中にSDG sの理念を入れていくということでおっしゃいましたので、この質問を上げていたんですけれども、その点についてしっかり取り組んでいただきたいことをお願いしておきます。

では、次の質問に入らせていただきます。

さきの議会において、いきなり具体的な話になるんですけれども、高齢者が狭いアパートでスプレー缶の穴空けをしていた場面に私は遭遇して、前回質問したんですけれども、非常に危険じゃないかということで、スプレー缶の排出のとき、スプレー缶の穴空けは省いていいんじゃないかと。省いた自治体も——当然ガスは抜くんですけれども、サイドのくぎで穴を空けるやつは省いていいんじゃないかという質問をさせていただいたときに、今後検討させていただきますという答弁だったので、その後どうなのかなと思って、今回この点につい

て上げさせていただきました。いかがでしょうか。

○議長（辻 浩一君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

お答えいたします。

前回の質疑以降、改めてスプレー缶の排出方法について近隣の状況を確認しております。近隣のほとんどの自治体がスプレー缶の穴空けを継続するという状況でございました。これは、ごみ処理の過程で発生する中身が残ったままのスプレー缶が要因でパッカー車とかの火災事故とかが挙げられて、実際、今年度、近隣の他県においては、ごみ処理施設で火災が発生して処理機能が停止して、本市のじんかい業者も収集の応援に行った経緯もございます。

当市につきましては、こういった状況を踏まえ、ごみ処理施設やじんかい業者の安全確保のため、当面は市民の皆さんへスプレー缶の穴空けについて御協力をお願いしたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。こっちを立てればこっちが立たずという状況でありますけれども、そうじゃなくて、高齢者だけじゃないんですけれども、スプレー缶の穴空け等について、きめ細かな注意喚起等ができればいいんじゃないかなと思いますので、今私が言いましたスプレー缶の穴空けを不要にするということが厳しければ、課題である穴空けに関しては十分気をつけてくださいというような注意喚起をしていただければと思います。

○議長（辻 浩一君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

高齢者の方で力がなくて簡単に穴空けができないということでありましたら、環境下水道課のほうに相談をしていただいたら個別で対応していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

そこら辺もなかなか気づかない部分もありますけど、よろしく願いしておきます。

では、次の質問に参ります。

事業系のごみ袋で、私、注意書きを入れてどうのこうのと書いていますけど、若干視点を

変えて、事業系のごみ袋がありますけれども、この対象者の制限というのがあるのかどうか、お聞きしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

個人は購入できません。事業者の方のみになります。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

そういうことですね。いや、私は販売が——すみません、全部調べたわけじゃないですけど、普通の人も買えるようなところに置いてあると思うんですけど、これは個人では買えないというふうに理解しているのですか。そしたらこの質問はする必要もなくなってくるんですけれども。

○議長（辻 浩一君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

事業系のごみ袋で大きいということで、（現物を示す）これに粗大ごみとかを入れて中継基地に持込みをされる方が実際いらっしゃいます。それで、一応今年度からここに、このごみ袋では粗大ごみは出せませんということで表記して作成して売っております。

それで、中継基地のほうでも従業員の方が来られて、作業の方が来られて、こういったものは捨てられません、粗大ごみで出してくださいということで注意喚起はされております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

個人の方が持ち込まれるのでそういったトラブルが起きているというふうに聞いたんですよ。事業者の方は事業系のごみ袋に関してはどういう使い方をするというのは分かっているんですけど、個人の方が布団を入れたりとかして持ってきて出されるというふうなことを聞いたもんですから、その点についてお聞きしたんですけど、前提として、個人の方は、事業者以外はこのごみ袋の購入はできないと判断しているのかどうか、そこは徹底されているのかどうか、お伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

販売については、個人じゃなくて事業者の方が購入ということでされておりますので、個人で購入されている方は私のほうでは把握しておりません。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

把握していないというか、実際買っている方もいらっしゃるんで、例えば、それが必要とされるのであれば、逆に言えば、事業系のごみ袋としてじゃなくて、一般の大きな袋もできないのかなと思ったものですから、そういうのを個人の方が買ったらいけないのに買っているというような状況であるならば、逆に今度はそういった必要性のところも探っていく必要があるのかなと思って質問させていただいているんですけど、いかがでしょうか。

○議長（辻 浩一君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

そういった考えでは販売しておりません。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

すみません、何遍もしつこいんですけど、これは個人では買えないということですね。あくまでも事業者じゃないと買えないと。そしたら、証明とかなんとかを出す必要があるんですか。そこまで厳しくしているわけじゃないですよ。

○議長（辻 浩一君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

販売店のほうでそういった確認をされているかは把握しておりません。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

建設部長。

○建設部長（井上元昭君）

すみません、補足して御説明をいたします。

事業系ごみ袋につきましては、販売店のほうで事業者、一般の方、分けて販売しているわけではございません。ただし、先ほど課長が申しましたように、事業者の方専用ということ

で販売をしておりますけれども、なかなかその辺の周知ができていない部分もあってか、個人の方がお買いになって、あまり分からない状況で粗大ごみを入れて出しているというふうなことになっていると思っております。

そういったこともありますので、今後はもっと分かりやすく、ごみ袋等については図っていきたいと思っております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

やっぱりそういう方が若干いらっしゃるものですからこういう質問をさせていただいたんですけども、もう一点、粗大ごみに関しては、以前、私、このことも質問させていただいて、持込みのためのシールですね、あれは当初は塩田地区しかなかったんですけど、今、嬉野地区には置いてあるんですよね。いかがでしょうか。

○議長（辻 浩一君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

嬉野地区でも販売しております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。じゃ、さっきの点については、いろいろトラブルがないような形でもよろしくお願いしておきます。

それでは、最後の質問に入らせていただきます。

これは今までも何回かやっているんですけども、通学路の危険箇所について質問をさせていただきます。

通学路の危険箇所の点検についてはどのようになされているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

総務・防災課長。

○総務・防災課長（太田長寿君）

お答えいたします。

まず、交通安全の所管のほうからの答弁をさせていただきます。

通学路の危険箇所の点検につきましては、例年10月から11月の間に、通学路における合同

点検と称しまして、各学校、本市の教育委員会、警察、国道、県道、市道の道路管理者、それから、交通安全協会等の機関で、合同で点検を実施しております。令和3年6月に千葉県で痛ましい交通事故があったということを受けまして、8月20日、23日、26日の3日間、緊急で合同点検を実施しております。

合同点検以外では、危険箇所があった場合は、PTAの方などが各地区の区長さんなどからの連絡を受けて、その都度点検を実施しているという形を取っております。

総務・防災課におきましては、交通安全と防犯の面での点検という形で取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

教育委員会でも音頭を取っております、さきの議会のときも御報告をしたと思っておりますけれども、例年は10月にしていたんですけれども、千葉県の事故を受けまして、夏休み中に先ほどあったようにチェックをいたしました。そして、関係機関と連絡を取って、これまでに、例えば、市教委でいきますと、横断旗の設置、通学路の変更、あるいは警察のほうでは速度取締り、停止線の標示、佐賀県国道事務所あたりではカラーポールを設置、横断歩道ありの路面標示、例えば、国道34号には（資料を示す）「スピード落せ」とか、ずっと下っていく、長谷に行くところがあるかと思いますが、（資料を示す）こういう標示を路面に書いてもらうとか、こういうところもしていただいております。それから、（資料を示す）嬉野中学校の入り口のところですけれども、県道の入り口なんですけれども、県道の下を通ってくる部分が歩道がないものですから、学校に入る子どもたちと、それから、自転車小屋に持っている部分とあって、そこら辺の修復というんでしょうか、通りやすく、危険がないようにというふうなことで、こういう対応をいただいております。そういう具合にしているところです。

市の建設課からもカラーコーンあたりをしてもらっていますし、実験的にこの前は、琥山さんのところから出てくるところにカラーコーンを2つ立てていただいております。というのは、あそこは子どもたちが渡って待機をする部分であったんですが、両方立てたら非常に危険度が高いということで、向こうのほうは残っていますけど、手前のほうは現在外してあるというふうなことで、昨年10月から今日まで、いろいろな場所に対応できる内容について対応してきているという状況でございます。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

分かりました。危険箇所の点検はされているということですね。

先ほど教育長がおっしゃった、カラーコーンを置いてあるのも、えっ、何でここにあるのかなと思いつつ見ていたんですけど、あれがあるときはやっぱり大回りして回るので、多分そういうことだろうなと思いつつ、あれは取り外してあるんですけど、1回あれをつけてあったので、そういう意識にはなっていて、子どもたちが通るときに触らないような形にという意識にはなりましたので、啓発にはなったんじゃないかなと思っております。

今そういう形で点検をされている、また、そういった対応もされているということでありましたけれども、まだまだ取り組まなければいけない場所というのがいっぱいあると思うんですが、ここは早急に取組まんといかんみたいなのが、大きなところがあれば教えていただきたいんですけども。

○議長（辻 浩一君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

実は、今月21日に県道が開通いたします。嬉野中学校の前の道路ですね。そして、国道34号につながる道路であります。

嬉野中学校では、交通に関わるもので通学路検討委員会というのを立ち上げてもらって協議をしていただきました。ちょうどクロネコヤマトさんの、こっちから行けば手前のところに入り口がありますね。あそこへ行かれますと、歩道はありません。ただ、こっちへ渡るだけです。こっちに入る視覚がないんですね。そうすると、一位原、三坂方面から来た子どもたちの自転車は左側通行ですから、信号のところでは渡れないわけです。そうすると、結局、どこで渡るかという、手前で、セブンイレブンの前の横断歩道で渡るか、それともそこを過ぎて、ケーキ屋さんの前の次の信号機で渡るか、左側通行です。渡って、また左側通行を戻ってきて入るというふうな動きをしなくちゃならないという状況もあるわけですね。そうじゃなくて、真っすぐ今寺の公民館前まで行って、そのまま信号機で渡っていこうかというふうなこともいろいろ想定しながら、今協議をしたところです。

しかし、中学校前の県道の交通量がどれくらいになるのか想定が今のところできませんので、しばらくは様子を見ながら、従来どおりのほうで、21日ですから、22、23、24日とあるわけですね。それについては今寺方面から入れて、そして、交通量調査をして、最終的には総務・防災課の副課長あたりと相談をしながら、子どもたちに危険度が少ない部分を通していこうということで、最終的には親さんあたりに相談をしながら、家庭での判断もしていただきながら決めていこうというふうなことでございます。

一番の課題は、いわゆるその3地区から来る、式浪、今寺地区あたりから来る子どもさんですね、そこら辺が大きな問題ではないかと思っております。

それから、先日、嬉野小学校の、こっちのほうの下宿大通り線はいいんですけども、いわゆる農道がずっとつながってきますね。あの道路がどれくらいかということで、8時前から見ていたんですけども、あれも結構多いんですね。こう入ってくるもの、それから、高速道路のインターのところから入ってきて抜けるものですね。ですから、そこも併せて、小学校の1班が通学路になっていますので、そこら辺も含めて、ちょっと様子を見て判断していこうというふうなことで考えているところです。

要は、子どもたちが交通事故に遭わないための手法ということで、検討中でございますので、今後、春休み中あたりにそういう結論を出していくというふうなことになろうかと思えますけれども、職員も幾らかは替わりますので、ただ、替わっても一貫して指導はしていこうというふうなことで、特に中学校あたりは学校通信あたりで一応の報告は、情報提供は保護者の皆さん方にはしている状況です。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

詳しくありがとうございました。私がまさに言いたかったのが、例えば、さっきおっしゃったように、対応を今後していくということでありますけれども、なかなかできないところも現実には——予算とか地権者の問題とかいろいろな条件によってできないということがあると思うんですね。危険な箇所がすぐ対応できればいいんでしょうけど、なかなかそこには課題があってできないと。

全てではありませんけど、私、以前、県道下宿塩田線のうれしの特別支援学校に行く道ですけど、抜け道になっているところを質問させていただいて、樋の口交差点まで行かずに、手前で、抜け道で入っていく車がある。私も現地を確認させていただいて、うれしの特別支援学校に行く生徒とか、それから、五町田小学校に行く生徒とか、通学路であそこを通っているんですけども、非常に道が狭くて、何とかできないかという質問をさせていただいたときに、なかなかできないと、拡幅自体も厳しい、歩道を造るのは厳しいという中で、グリーン舗装を提案させていただいて、その後、そのグリーン舗装のところをしていただきました。それによって車の速度も落とせるし、子どもたちも——それで完璧じゃありませんけれども、取りあえず何らかの形でやったというのが、あそこはそういう一つの例になるのかなと思っているんですけども、そういうできる限りの取組をやっていただきたいなと思います。拡幅とかできなければ、グリーン舗装を今結構あちこちでやっていますので、そういった厳しいところは確認させていただいて、あと、ゾーン30とか、そういったことを活用していただければなと思って提案させていただきます。

ちょっと今言ったついでですけども、その樋の口交差点の手前のうれしの特別支援学

校に行く、私が言いましたグリーン舗装をしていただいたんですけれども、経年劣化で今消えていますので、あそこは再度きちっと引き直していただければと思います。そういったことを活用して、ほかのところでもそういうのが利用できる場所があれば、そういう部分も使っていただければいいんじゃないかなと思って提案させていただきました。

それとともに、先ほど総務・防災課長のほうからも話があったように、道路だけの問題じゃなくて、不審者とかそういった部分の対応も必要になってくるのかなと思います。

そういった意味で、今後、防犯カメラの設置は非常に効果的じゃないかなと思うんですけど、防犯カメラの設置についての考え方、そういった対応は考えていらっしゃるのかどうか、お伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

今後の施策方針としてのお尋ねだということでございますので、私からお答えをさせていただきます。

今議会の予算の中でも、県の支援もいただきましたので、増設をするということにしております。今、嬉野市の職員が業務で使用する公用車もドライブレコーダーがありますけれども、あれも動く防犯カメラとして、何かあったときには警察のほうから照会があったりとかすることもありますので、そういった犯罪の抑止につながっているのではないかなというふうにも思っております。

今後、これは監視社会を嫌がるという一面も、善良な市民の中にも当然いらっしゃるわけですので、そこら辺の気持ちには十分配慮したり、説明責任が伴うことはもちろんですけれども、やはり安全・安心を求める声が増しに高まっているというふうに思っておりますので、いろんな設置場所を見つけては、こうした増設の方向で考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

梶原睦也議員。

○15番（梶原睦也君）

私も全く同感でありまして、議案審議のときにも私、設置した場合に公表せないかんとか、そういう質問をさせていただいたんですけど、何でそういうふうな質問をしたかという、防犯カメラ設置については、先ほど市長がおっしゃったように、一番最初、嬉野市で防犯カメラを設置するときに、物すごく議論してこれはつけたんですよ。プライバシーの部分があるということで、本当に慎重に取り扱わないといけないということで、最初の防犯カメラ

設置の予算がついたときにそういう議論をした記憶があったものですから、これについては本当に、そう言いつつも、この防犯カメラの防犯の効果というのは絶大なものがあるわけで、いざ事件があったときは防犯カメラがその証拠になるわけですので、こちら辺は慎重にそういったことも含めて判断しながら、防止策としての防犯カメラの設置は今後進めていっていただきたいと私は思っております。

以上をもちまして私の一般質問を終わらせていただきます。

最後に、本当に子どもたちが無事故で安全に安心して暮らせるような嬉野市をつくっていただきたいということを要望して、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（辻 浩一君）

これで梶原睦也議員の一般質問を終わります。

議事の途中ですが、ここで14時20分まで休憩いたします。

午後 2 時 9 分 休憩

午後 2 時 20 分 再開

○議長（辻 浩一君）

再開します。

一般質問を続けます。

議席番号 9 番、宮崎良平議員の発言を許可します。宮崎良平議員。

○9 番（宮崎良平君）

皆様こんにちは。議席番号 9 番、宮崎良平でございます。

傍聴席の皆様、また、テレビ等で御覧になられている皆様方には日頃より議会の関心を賜り、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、このところ、春告げ鳥、ウグイスのさえずりを朝聞きながら、迎えながら、春の訪れと、改めてこの国に生まれてよかったと、そして、平和の尊さを深く感じるところでございます。

そのような中、新聞に目を落とせば、一面は毎日、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻。多くの命が奪われ、目を覆いたくなるような光景が繰り返されております。様々な評論家が様々な議論を交わしていらっしゃいますが、いかなる理由があろうとも、国際秩序の根幹を揺るがす核による脅しでの主権国家に対する侵略行為は断じて許されるものではございません。ウクライナの主権国家としての尊厳を守り、人々の一日でも早い安寧を願っております。

そして、昨日、福島沖を中心にマグニチュード7.4、震度6強の地震がございました。復興の中での大きな地震に心を傷めながらも、被災者の方々の心に寄り添い、行動をしていきたいと思っております。そしてまた、お亡くなりになられた方々にはお悔やみを申し上げた

いと思っております。

それでは、改選後初めての一般質問になりますゆえ、心新たに初心に戻り、我が嬉野市のお役に立てるよう精進することをお誓い申し上げ、議長の許可をいただきましたので、一般質問に移らせていただきます。

さて、今回は大きく分けて3つの質問になりますが、1つ目、市長の公約について、2つ目に西九州新幹線について、3つ目に今年の豪雨災害についてを上げておりましたが、まずは市長の公約についてということで、既に多くの同僚議員より質問がっておりますので、できるだけ視点を変えながら簡潔に質問をさせていただきたいと思っております。

それでは、選挙の際に作成されたリーフレットの中で、大きく6つの公約を掲げられていたものについて、今後、実現に向けてどのような戦略の下に取り組むのか、お伺いしたいと思います。これは①から⑥、①が「防災・減災で安心安全なまちづくりを目指す!」、②が「新型コロナウイルス対策をどこよりも早く!」、③「笑顔の集まる子育て・教育現場に!」、④「女性やハンディがある方など、多様な人材が活躍できるまちへ!」、⑤「嬉野の地域産業を県外へ!」、⑥「最新技術で暮らしやすい嬉野へ!」というものが6つございます。ここを①から⑥まで一括してお伺いして、再質問、残りの質問におきましては、質問者席より行いたいと思っております。

大変恐縮なんですけど、①から⑥までたくさんございますので、できるだけ簡潔をお願いを申し上げたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（辻 浩一君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（村上大祐君）

それでは、宮崎良平議員の質問にお答えをしたいと思います。

さきの選挙戦で掲げさせていただきました公約についてのお尋ねでございます。

1つ目に掲げさせていただいたのが、やはり昨年8月の豪雨災害、嬉野市始まって以来の大きな被害でございました。その復旧・復興スピードをアップするのはもちろんのことですが、その教訓というものをしっかり生かして、安心・安全のまちづくりにつなげていくべく、この情報発信のあり方の検討というところで、防災・防犯のアプリを開発して、リアルタイムで皆さんに適切な情報を提供していくということでありまして、その提供する情報の精度を高めていく、また、納得をもって避難の行動につなげていくためにも、AI、人工知能等を活用した浸水予測を行って被害の軽減も図っていくという必要があるかと思っております。

また、避難所空白地域というのが、これは歩いて避難できるところがないという方もいらっしゃると思います。高齢化が進む中であっては、そういった地域をできるだけ地域のコミュニティであったりとか、また、行政区単位での結束をもって解消していくということが重要で

あろうかというふうに思っております。

2点目のコロナ対策につきましても、今、第6波と言われる状況であります。今、新型コロナウイルスの3回目の接種につきましても、市民の皆さんの御協力、御理解をいただきまして、早く進んでいる状況でございますけれども、引き続き、こうした感染予防に対する啓発も見詰めていきながら、この新型コロナウイルスを早く鎮圧して、人の流れというものを取り戻して、地域経済の活性化に反転攻勢を強めていく、そういった準備も必要かというふうに思っております。このコロナ禍の中で、発表の機会を失った文化芸術の復興も支援をしていく必要があると思いますし、また、市民の経済の活性化に御協力をいただくための事業も行っていきたいというふうに思っております。

3点目の笑顔集まる子育て・教育現場につきましても、いわばこの混迷の、正解のない時代を生きる子どもたちに、自らの力で夢をかなえるまちでありたいという願いから、国際化に対応した英会話教育の充実であったり、また、理科教育の充実、また、子どもの体力低下というものに立ち向かっていくためにも、こうした遊び場環境の充実であったり、また、子どもを育てる親御さんが社会からの孤独感を感じることなく相談体制を充実することで楽しみながら子育てのできるまちを目指してまいりたいというふうに思っております。

4点目につきましては、多様な人材の活躍ということであります。この女性活躍推進というのは、若年の女性人口をつなぎ止めることがこの地域の活力を維持する上で欠かせないことですので、働く女性の支援から、また、外国人、また、アクティブシニアというふうに表現をされるような、元気な高齢者の生きがいもつくっていくことで、一人一人が輝きながら暮らしていける嬉野市の実現に向けてまいりたいと考えております。

5点目につきましては、嬉野の地域産業の振興でもございます。今、塩田町に建設中のハウス団地で、トマト、キュウリ、イチゴといった園芸野菜をブランド化していく、その礎となる若い人材を地域内外から引っ張ってきて、こうした農業振興に生かしていきたいというふうに思っておりますし、既存の農業でいけば、嬉野のお茶に取り組んでいただいている若い農業者の応援、また、商工業、窯業、そういったところの支援を展開していく中で、西九州新幹線開業という大きなチャンスを飛躍のポイントに変えていくということに注力をしてまいりたいというふうに思っております。

6点目の最新技術で暮らしやすい嬉野ということでございますが、これはデジタルトランスフォーメーション、DXということで、何度も今議会にも登場した言葉でございますけれども、こうした市民の皆さんに質の高いサービス、また、少数精鋭の職員の中で業務の効率化を図って、市民に還元していく行政サービスの展開から、また、近未来の技術を導入して、身近なお困り事の解決に向かっていくための自動運転車両の導入であったりとか、様々なこうしたドローンのようなスマート農業の展開、そういったものも市としてチャレンジをしてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

以上、駆け足になりましたけれども、お尋ねの6点についてのお答え、そして、宮崎良平議員の質問に対するお答えとさせていただきたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

ありがとうございます。まず、市長、1つずつ、①について伺っていきたいと思っていますけど、丸の項目は3点あるじゃないですか。防災・防犯アプリを開発とか、AIを活用した浸水予測を行い被害の軽減とか、あとは避難所空白地域をゼロにとかと3点あるんですけど、これは基本的に人的被害という面から見ると、すごくアプリの開発、AIの活用等も含めると、人の命を守るという課題においては、すごく軽減につながることも考えられると思うんですよ。もちろん、まずは市として、市長として市民の命を守るということが第一の使命であり、先決事項ということではあるんでしょうけど、併せて、これは財産も守ることになると、これもまた必要なことじゃないですか。そこで、当然、さらなる治水対策というところが絶対に必要になってくると思うんですね。治水対策というものを市長がよくおっしゃるデジタル、またはAIの活用という観点からどのようにお考えなのか、そこをお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

この近年の激甚化する災害において、即座にやはり対応できることといえば、まず逃げるということに尽きるのだろうというふうに思いますが、その災害の被害軽減そのものも当然取り組まなければならない課題だというふうに思っております。

ただ、なかなかソフトの面では、そういった被害の軽減自体は難しい部分がありまして、ハード、ある程度年数がかかってしまうようなものが被害そのものを減らす方策としてはないのも現実かなというふうに思っております。ですので、10年、20年という長期の展望に立った流域治水という考え方の中で、ハード整備を進めていく。それは当然に巨額の投資を伴うこともありますので、それを納得していただいて、御同意をいただけるためにも、そうした浸水予測のような最新技術に裏打ちされた被害の予想図というものを、ぜひ自分事として感じていただくようなデータとして提供できるように考えていくように考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。

ところで、これまでの治水対策ということになると、これは全国的に見てもそうなんだろうけど、要は過去の降雨量とか、また、被災の経験を鑑みながら、若干アバウトな統計というもので行われてきた、計画もそうなんですけど、行われてきたと思うんですね。そういう状況であると思うんですけど、でも、こういう計画及び手法だと、近年の降水量の多さというものに対応できなくなっているんじゃないかと思うんですね。当然これは抜本的な対策としては、ここら辺でいうと、不動ダム建設とかということになってくるとは思うんですけど、ここら辺も視野に入れて当然動かなきゃいけないというのはあるんですよ。しかしながら、これは費用も時間も、先ほど市長が言われたようにかかると思うんですね。そのような中で、早く安くということになると、既存の基礎インフラを最大限に生かすということも考えられるんじゃないかと。そういったものをAIとか、デジタル活用をして、そういったものを取り込んで、流域施設全体を、また、極端に言えばまち全体を、いわば貯留施設として仮想して管理していくという考え方、こういったものも必要かと思うんですけど、市長、それに対していかがでしょうか。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

特に水害時におきましては、水門の操作であったりとか、また、ポンプ場の操作等、オペレーターの方の長年の経験であったりとか、ある種の職人的な勘の中でやられている部分もある。そして、そのオペレーターの方が高齢になっているという現実もあります。次なる人材を育てていくオペレーターの育成というのも課題になっている中で、誰がやってもきちんと最適解を導き出せるために、そういったAIの浸水予測というものも活用できる可能性というのは横たわっているのではないかというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

それと含めてですけど、流域の施設全体を貯留施設として考える場合に、最近よく考えられるのが田んぼダムというものが全国的にでも注目をされているところでございます。今回、県の当初予算においても、2月でしたね、この前、当初予算に出ていましたけど、当初予算案の中で、田んぼダム導入のための予算が計上されております。もちろん、これは御存じかと思いますが、今回、佐賀市、武雄市、神崎市、上峰町、みやき町での実施ということになっているんですけど、これは全国的に見て、過去最大の記録的雨量を観測している我が嬉野

市。流域面積が県内最大でもあるんですよね。ここが何で入っていないのかなと思いながら見ていたんですけど、これは県が独自でやっているのか、それとも、各市町村に、どこかやるところ、はいとって手を挙げてやっているとか、どのような形で決められたのかというのと、あと、我が市に打診があったのか、また、これは検証段階ということで進められていることなのか、そこをお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

農林整備課長。

○農林整備課長（馬場敏和君）

お答えいたします。

打診があったかということですが、2月に県のほうから、こういう事業を当初予算で考えているということで、現在、3月10日ぐらいに一応要望調査がっております。先ほど議員言われたとおり、佐賀市とか神崎市、あの辺に関して今回予算が組み込まれているということでありまして。その他というところで幾らかこの要望に対して一応補助できるようにということで組んであるということをお聞きしております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。

それこそ、市長、この前、南里副知事が来られたじゃないですか。そういうときにお見えになって、そのような話はなかったのかなと思って、ちょっと気になっておりましたけど、そこはいいとして、この田んぼダムは農業者においては当然多少の手間がかかると。また、デメリットとされているのが、あぜの崩落、こういったことも考えられるということで、あまり乗り気じゃなかったりする農業者の方々がたくさんいらっしゃるんですよね。そこはデメリットと言われるものなんでしょうけど、今回、県がやることというのは、聞くと、木製の堰板を張るだけと。その費用と、10アール2,000円の協力金と、被災した場合の復旧費ということで計上されている。

最初は、これはうまく活用できないのかなと思ったんですけど、排水口に板をはめるだけということで、ちょっとあまりにも——こんなものなのかなと思いながら、もう少し先進的な取組というものにいけなかったのかなと思って、知り合いの県議さんたちにも強く要望はしたんですけど、これは新潟市とかなんとかは、スマートフォンとかを使って、それこそ遠隔操作ができるような給排水の水栓を使った実証実験をされているんですよね。これは農水省の支援というのもあるようですから、このようなことを視野に入れて、市長、この治水対策の検証に取り組んでいくということではできないでしょうか、お伺いします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

この自動で水位を調整するものですね。スマートアグリで、私も展示会で拝見したことはございます。そういったある程度、それこそ米作りの技術というものをこの職人的な勘に頼っていた部分を、自動の力でそういった解析をしながら、適切な水管理をしていくシステムということでございますが、事、防災に関しましては、御承知のとおり、塩田川周辺の水田地域というものを、もう既に、毎年そこは冠水のエリアになって、十分に湛水をしているというふうに私自身は評価をしております。そういったこともございますので、果たしてそこが、田んぼダムの質問をいただいたときも部内で協議した経緯がありますけれども、嬉野市のこの地域事情に合うかということになれば、少し研究が必要ではないかというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。ここだけで時間を使うと、ほかの質問に行けなくなりますので、改めて質問の機会を設けたいと思いますけど、これは市民の命と財産を守るために、あらゆる知恵と経験を駆使して、これまで以上に災害対策に取り組んでいかなければならないと思っております。

では、ここで2番のほうに移りたいと思います。

ここでは新型コロナウイルス対策をどこよりも早くということで、ここに上がっておりますけど、経済面での質問をしたいと思っておりますけど、市内経済がかなり冷え込んでいるという状況が今でもございますね。これはあらゆる対策を市としても今まで講じてこられたと思うんですけど、現状、あとどれくらいの新型コロナウイルスの感染症対策、感染症対応地方創生臨時交付金、これが今どれくらいあるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

暫時休憩します。

午後2時43分 休憩

午後2時44分 再開

○議長（辻 浩一君）

再開します。

行政経営部長。

○行政経営部長（永江松吾君）

お答えいたします。

先般、国の補正予算で内示がありました新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金は、内示があった分で1億8,000万円ぐらいがあっておりますが、そのうち1億4,000万円ほどがまだ事業に充当していない金額となっております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

では市長、この1億4,000万円、これを今後どのような形で、どんなものに重点を置いて使っていくのかというか、そこをお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

新型コロナウイルスとの闘いも3周目に突入いたしました。その中で、やはり人の流れが抑制されたことによりまして、売上不振に苦しむ中小事業者さんも多くございます。一律の給付金の中ではなかなか対応できなかった部分もあったりとか、また、こうした各種国の交付金制度等いろいろある中で、実は収支でいけば、国が売上減少の額に応じて補償する制度の中に、費用の中に対象外になってしまうようなケースもなかなかあったりとかします。また、何より市民の皆さん一人一人のマインドが冷え込んでいることも、やはり地域経済に与える影響は大きいというふうに思っておりますので、反転攻勢というタイミングを見極めて、しっかりとこうした消費拡大につながるような取組につなげていきたいというふうに思っておりますし、また、文化芸術の復興、そういったところも強く印象づけるような形で使えたらというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

先ほどおっしゃった国の給付金が受けられないとかなんとかということで、ある事業者さんとかもいらっしゃると思うんですけど、これまでこれは恩恵が少なかった。何かしらの事業で恩恵が少なかったとか、また、様々な条件で給付が受けられなかったとかという事業者のお困りの声とかがたくさんあるわけじゃないですか。市長、これは市長のところに多分上がってきていると思うんですけど、どのようなお声が上がってきているとか、お伺いしたい

と思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

いわゆる第6波が今の状況でありますけれども、第5波、第6波と受けている間に、やはり第6波、今回が一番大きかったというようなことも伺っておりまして、それを受けて、金融機関のほうにも、そういったところの積極的な投資、攻めの投資にももちろんですけども、そういったところの返済猶予も含めたところの柔軟な対応、地域の商工業者さんに寄り添った対応をお願いしますというのを要望に直接伺いもしたということもございます。これからそうした声というものがもっともっと私どもも出向いて、そういった声を救い上げながら、反転攻勢の策を練っていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

これまでのことをお聞きしたいんですけど、これまで独自の給付金等があったわけじゃないですか。そのような中で、市長、これは市独自の給付金において、どこまで給付するとか、条件というか、基準というか、こういう判断というのはどのようなことを重点に置いて基準にされてあったのか、これは明確な基準というものがあるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

給付金事業も市独自としても行ってまいりましたけれども、これは国や県も同様にそういった事業を手がけられているタイミングもありましたけれども、そういったところの市としてできるのは、まず、早くできるということがメリットでありますし、そういった国、県の制度の中でこぼれ落ちてしまうようなところをしっかりとセーフティネットとしてすくい上げるというのが基礎自治体に課せられた使命だろうということで、そういった考え方の下で給付金事業を行ってまいりました。

直近の、年明けの嬉野市としても初めてのクラスター発生から感染が拡大したというところでありまして、そのときには選挙の期間中、真ただ中ということでもございましたけれども、そこは専決処分での予算をお願いして、こうした事業者の給付金事業も行ったということではありますが、これは、クラスター発生というところを重く見たということと飲食店に

由来する部分だということが明々白々であったということから、こうした事業になりました。その状況状況で、私もこの新型コロナウイルスの感染が広がっている要因、エリア、そういったところも加味しながら、総合的に判断をしておるところでございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。

これは多分、何をやっても、どのようなことをしても、必ず様々な声上がることは確かにあるんですね。状況状況によってということはあるんでしょうけど、状況状況ごとに明確な基準というものをしっかり示して事業を進めていってほしいなど。公平性というものを改めてきっちりと考えながら進めていってほしいと思っております。

では、次に3番に行きます。

3番の笑顔の集まる子育て・教育現場にとあるが、これは学校現場においては、GIGAスクール構想等で教育現場も落ち着かない状況にあるわけじゃないですか。まずは現場を安定して運営していくということが必要かと考えるんですけど、そこにおいて、今回このところ、一番上にオンライン英会話の国際化ということで、これに対応した生きた英語教育の転換というのがあるんですけど、教育現場の負担とかというのにつながらないのかなど、そこをちょっと心配しております、そこをお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

これは教育現場への負担になるかならないかといえば、それはゼロではないのは当たり前だと思います。その中で、どこを強調してやっていくか、どこを効率化していくかというところの議論になってくるかと思えますけれども、やはり近年の大学の入試試験であったりとか、そういったところで求められるものが本当に英語の問題一つとっても、砕けた表現が多様されるような、いわゆる今までの学校教育の読み書きを中心とする英語では太刀打ちができないような問題が出てきているなど。それは長い期間をかけて、シャワーのように英語を浴び続けないと、ああいう感覚は身につかないと。私がやっぱりちょっとその問題を、新聞によく載っているのを見て、ここ数年の出題傾向は大きく変わった。つまり、それは国の求める人材が大きく変わっているということに尽きると思っておりますので、そういった対応をしていくためにも、それは我々地域の挑戦としてやっていかなければならないというふうに思っています。その負担を負担のまま積み残してしまうと、それがどっちつ

かずになってしまいますので、その分オンラインの授業の準備等々の負担が増えた分をどこで効率化していくか、教育長さんもこのコロナ禍の中でスクールサポーターを導入して、そういった新型コロナウイルス対策のところはこうしてまた新たに人を雇って、先生の負担軽減をしていただいていると、現場の創意工夫もあるかというふうに思いますので、その辺は教育委員会と綿密な連携の下に、トータルでは負担を相殺できるような形で、この教育改革は進めていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。

これはよく言われるのが、英語が話せる日本人が国民全体の10%しかいないと、10%以下と言われてますよね。言いたいことは不自由なく言える、英語で。これが三、四%ぐらいと言われてるぐらいなので、本当にこの英語教育というのはすごく大事なことだと思うんですね、国際社会に向けてですけど。そういう中で、市長1点だけ、本当にこの件に関してはすばらしい取組なので、教育長にもっと聞きたかったんですけど、私、教育長の名前を書いていなくて、市長に聞かなきゃいけないんですけど、これは逆に負担軽減ということに最終的につながるようなことになるのか、そこをお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

生きた英語教育というものを突き詰めてやっていけば、本当に先生にかかる負担というのは、リアル、対面でやると、もっとかかると思います。そういったところを民間事業者であったりとか、いろんな創意工夫の下でやっていけば、そういったところがトータルでは負担の軽減とはいかなくても、先ほどから相殺という言葉を使っていますが、相殺できるところまでは持っていけるのではないかというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

では、これに関してはまた次の機会に教育長のお名前でご質問させていただきたいと思っております。

また、これは3のところですけど、公園施設の充実、遊具のさらなる充実、外遊びの楽し

いまちへとあるが、具体的に伺おうかと思ったんですけど、これは増田議員の一般質問の中でもほぼお答えになられていましたので、その中で1点だけですけど、現在、一昨年前でしたっけ、都市公園法の改正というのがあって、昨年、市内全域の公園の遊具を撤去して、新しい遊具に変更されたとありましたけど、その際にも質問させてもらったと思ったんですけど、改正前の法の中では、今、公園等の公有地というものにおいて、民間の投資において規制が大きかったものが、簡単に言えば、それが緩和されてP a r k－P F I等も活用した民間手法を取り入れた公園の維持管理というのできるということで、そういう理解でよろしかったですね。例を挙げれば公園内にコンビニがあるとか、飲食店があるとか、ドッグランがあるとか、大きい都市になると保育園があるとか、そういうのもありますよね。要は、公園の維持管理において、民間の力も活用しながらやっていく、魅力ある公園づくりをしていくというところでしょうけど、そういうことで市長のお考えとしては考えてよろしいでしょうか、お伺いします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

この嬉野市は、本当に都市公園の1人当たりの面積も全国で有数の広さを誇る場所もございます。それは裏を返すと、やはり維持管理については少し工夫が必要だということになってこようかというふうに思っておりますけれども、そういったところで民間の活力、総意工夫というものを取り入れるというところで、P a r k－P F I制度等も、これは活用に向けて研究をしていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

これは市長、具体的に今後、決まっているというか、市長が思い描いているもの、そういったものが、こういう公園ではこういうことをしたいとか、こういう公園ではこういうことをしたいとかと思い描いているもの、そういったものがあるのか、お伺いします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

まだ予算の背景もないので、具体的な施設名を挙げるのはちょっと差し障りがあるかと思いますが、ただ、嬉野の都市公園というのは、すごく景観がきれいなところが多いです。

その景観を生かして、例えば、カフェを展開してもらおうとか、そういったことはいろいろ考えられるのではないかなというふうに思っておりますし、私も幾つかそういったイメージにつながるようなところは見させていただいたというところでございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。

公園というのは楽しいところというのがまず第一前提でなければいけないし、安心・安全でなければいけないというのがありますし、わくわくするような公園づくりを期待しています。子ども目線で、女性目線で、ぜひお願いしたいと思っております。

では、④女性やハンディがある方など、多様な人材が活躍できるまちへということですが、丸の外国人実習生の日本語の教育を実施するとか、こういったことは分かるんですね。女性の働く環境改善や福利厚生の実施、こころも理解できるんですけど、一番下の女子野球応援タウンとしての代表合宿を誘致ということで、女子スポーツの正式化を目指すということで、市長、ここに写真まで載せて掲げてありますけど、これは市長、本気でやりますか。

女性活躍推進のまちとして、呼び水として進めておられるかと思いますが、職員の意識、市民の意識、そして、ソフト面、ハード面、これは予算においても思い切った舵取りが必要だと思うんですけど、相当とんがった政策じゃないと難しいと思うんですよ。ここに関して市長の御意見をお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

女子スポーツの振興、当然、市民の皆さんで頑張っている方を応援していくという中では、女性に限った話ではないと思うんですけども、スポーツ振興はやっていく。ただ、私自身の問題意識としては、若年の女性人口のつなぎ止めという観点から、やっぱり頑張る女性を応援しますよというまちを、やはり内外にアピールをしていかなければならないというところで、この女子スポーツというものを一つの媒介として、頑張る女性を応援するまち嬉野、女性が喜ぶまち嬉野というものをプロモーションしていこうという、一大こういった目玉の取組だというふうに思っております。

そういう中で、代表合宿を迎えるに当たりまして、施設等々、スポーツ施設の見学をいただきましたけれども、やはり女性選手にはちょっと使いにくいというようなお声もいただい

ております。折しも、こういった老朽化が施設全体で覆っている中に、こうした女性目線、女性アスリート目線で改修を加えていくことを旗印に、民間のこうした資本の投入も含めて、いろいろと仕掛けていくプロモーションの仕方があるのではないかとということで、このみゆきドームについては、ネーミングライツの公募を女性スポーツの活躍の拠点として嬉野市がやっていきますということで公募しました。その趣旨に賛同していただいた武雄市の企業さんが、このみゆきドームの芝生化についてもネーミングライツを10年で5,000万円の額で契約していただきまして、その業務提供ということで芝生化をしていただくような形になっていますけど、まさに公共施設の改修であったりとか、また、こういったバージョンアップに対しても、この民間の活力を生かしていくそのきっかけに、こうした女子野球の取組というのはなかったのではないかなというふうに思っています。これをもっともっと幅を広げていきながら、民間の投資を呼び込む、これは企業側としてもメリットのあることでありまして、やはり消費の主役は女性であるというところから、そうした社会貢献事業の中に女性活躍推進というものは賛同しやすい傾向にあるというのは、いろんな企業さんを回っていても実感をしますので、こうした取組を進めていく上で、やはりこの嬉野市に注目が集まる。そして、いろんな投資が集まるためにも、私はこれを本気でやっていくということで進めておりますので、庁舎内にもプロジェクトチームを設けて、今、進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。

課題はたくさんあるんでしょうけど、これは本当に職員さん、また、市民一丸となってやっていかないと難しいこと、事業だと思いますので、そこら辺も含めて、もう少しもう少しとんがった政策じゃないと難しいかなと。ある意味、嬉野市においては3つぐらい野球場があるわけですが、その中の1個を女子野球専用にするとか、ピンクに塗るとか、お花畑いっぱいにするとか、そういう何かしらやっていかないと難しいかなとっております。そういうことも含めて、ちょっと——ただ、世の中、女性活躍推進というのは、ある意味、世の中ジェンダー平等が叫ばれている中、これも大事なことなんですけど、逆に矛盾を感じるところがあるという方も結構いらっしゃるんですよ。ただ、私はシティープロモーション的に見れば、成功すればすごく面白いと思うんですね。毎回言いますが、嬉野の名前を崩すと、女が喜ぶ里という形で書きますので、そういう遊びというか、遊び心があつたほうが面白い、シティープロモーションとしてはと思うんですね。ただ、やるからには本当に全力でやらなければいけないことがあつて、真剣に本当に取り組まなければいけない、そう思っておりますので、どうか市長、そこら辺しっかりと取り組んでいていただきたいと

思います。覚悟を持ってやられているということで期待しております。

さて、次に5番目、嬉野市の地域産業を県外へということで3つ上がっておりますが、市長、この3つのもの、こと、またはモデルケースというものは、県外ということに出ていますけど、先ほど説明を聞いてもあまり分からなかったんですけど、これは県外に販売をしていくというか、要はショーケースを作っていくというか、そんな感じで捉えていいんでしょうか、説明をお願いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

県外、国内外に向けて、これは情報発信をしていく。また、消費を実際にしていただくという意味でございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

ちなみに、これは市長が進めるDX戦略、これに関連性があるのかということと、あと、またその構想の中に地域商社の構築、また、eコマース及び越境ECとか、そういったことまで視野に入れたものなのか、お伺いします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

ここのパンフレット等に掲げたものに関しては産業振興でありますけれども、当然、産業振興のサイクルをつくっていくには、いろんな方に触れてもらう、また、魅力を感じてもらおうということでありますので、それはデジタルの力を使って販路の開拓をしたり、また、商品そのものの魅力をアピールする場を増やしていくことだろうというふうに思っておりますので、当然に含まれるのではないかというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。

せっかくDX戦略ということで市長掲げられておりますので、様々なところまで手を伸ば

していきながら、この事業を進めていただきたいと思います。

次に、⑥へ行きます。最新技術で暮らしやすい嬉野へということで、これはすごくアバウトなことになるんですけど、未来技術の実用化で地域課題解決と。高齢者、観光客の移動手段として自動運転という実用化とありますけど、人口減少社会においては夢のある、本当に期待の膨らむ事業ではありますけどね。実際、現況としてどこまで今進んでいるのか、そこをお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

自動運転車両であったりとか、また、5G、そういった最新の技術を使って、いろんな情報発信の強化であったりとか、また、移動手段の確保、そういったところに関しましては、内閣府の事業で昨年度から取り組んでいただいて、5か年計画ということで、これから進めていくということになるかというふうに思っております。

このコロナ禍の中で、DXの要請というのも強まってきた感覚もありまして、オンライン申請システムであったりとか、そういった非接触型の市民サービスの展開というのは既に形にはなっていますので、その申請できる手続というものを順次拡大していくことで、最終的には全ての手続をオンラインで可能にしていくことを目標にしていきたいと思いますというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。

これは行政上の手続とか、そういったものに関しては分かるんです。それプラス、それこそ新幹線、駅周辺ということ、あとは自動運転というところまでいくと、今現況ですよ、今現況、可能性としてあるのか、そういったことも含めてですけど、今多分、実証実験中という形になる、その前かな、なると思うんですけど、今どういう形で進めていこうとしているのか、そこをお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（松尾憲造君）

お答えいたします。

自動運転に関しましては、現在、実走ですね、実際に運行されている箇所が全国に数か所

ございます。特に茨城県の境町、そこが完全自動運転化のバスを市内巡回という形を取られています。最終的にはそういったところまで目標に置きながら、現在進めているところではございますけれども、やはり警察とか公安との協議とか、実際どういったルートを走らせるのかとか、様々な課題がございますので、これから数年かけて実走に向けて進んでいきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。

夢がある事業だと思うんですね。市内全域、こうやって自動運転できるようになれば、それこそ高齢者の免許返納された方とかで、そういった方も乗られるし、それこそ本当に夢があることだと思うので、ここはすごく可能性として面白いと思うんですけど、これはすごく未知数じゃないですか。これは市長自身、この未来技術を用いて最終的にまち全体がどのように形、すごいアバウトなんですけど、どのような未来というものを市長自身がこの未来技術を用いてつくりたい、まちづくりというか、行きたいのか、そこをお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

この最新技術を散りばめたまちづくりで、よく誤解されがちなんですけれども、空飛ぶ車のような、そんな何か22世紀のドラえもんの世界をこの嬉野につくろうというわけではありません。嬉野のよさというのは、本当に自然とか歴史の重み、そういったものはありますので、そこに生きる人たちが、今まで培ってきたものに対して誇りを持ちながら生き続けられるまちでありたいと思います。とは申せ、地域コミュニティを維持していくにも、この生活を支える、そういった交通手段がないことで、この住み慣れた地域を心ならずとも離れなければならないということもなくするために、この自動運転というものをを用いて、住み慣れた地域で、独りなら独りでもとにかく住み続けたいという思いに寄り添うような政策でありたいと思いますし、近未来技術はそういった方向に私は生かすべきだというふうに考えています。

ですので、ある意味では、現状維持というのと、あんまりいい言葉じゃないですけども、今の暮らし、心の豊かさというのを感じながらも、この人口減少社会の中でそれを下支える未来技術というものを実走化していく取組、それは伝統、変革というものは表裏一体だと

私は常々申し上げていますがけれども、この古きよき伝統、このまちを守っていくために、改革、変革というものに果敢に取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました、安心しました。いろいろと、デジタル、デジタル、デジタルDXといつも言われているのでね、私は何となく分かっているんですけど、いつも市長はデジタル、デジタルと言いよるなとまちの人たちからも言われるので、そういったことをしっかりと伝えていただきましたかったので、こういう質問をさせていただきました。

ただ、これだけ聞いていると、すごくわくわくするような事業ばかりですね。ただ、これは選挙広報ということで、明るい夢を語らなきゃいけないということも当然あると思うんですけど、そういう中で、この公約が絵に描いた餅にならないように、しっかりとした市政運営をお願いしたいと思っております。

ここで上の質問を終わりで、次に、西九州新幹線についてということで質問を移したいと思います。

諸上議員も多分聞かれたかと思うんですけど、西九州新幹線についてということで、JR九州が9月23日に開業することを正式に発表されたじゃないですか。市として、今後、市民一体となった機運醸成に向けて、これは諸上議員からもあったと思うんですけど、もう一度、市民一体となった機運醸成に向けた策というものが練られているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

新幹線・まちづくり課長。

○新幹線・まちづくり課長（松尾憲造君）

お答えいたします。

9月23日の開業というものが発表されましたけれども、これが三連休の初日ということで、今のところ、担当課においては、その三連休3日間は、やはり集客に向けたイベント等を行っていこうということで考えております。

それ以外に、今後考えられるイベント等といたしましては、ゴールデンウイーク明けに新幹線の車両が実際、試験走行が開始されることとなります。そのときの最初に駅に入ってくる車両の歓迎イベントなども今計画を進めているところでございます。

それと、沿線同士でのネットワーク会議に参加しておりまして、5市で連携したイベント等も今後発表していきたいというふうに考えているところです。

あと、機運醸成という部分におきましては、いろんなところで今、協力をいただいている

嬉野高校さんとの連携ですとか、この名札も先日、嬉野高校の塩田校舎、機械科、建築科のほうから寄贈をいただいて、こういった周りのいろんな方々と連携しながら機運醸成に向けて進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

観光商工課長。

○観光商工課長（福田正文君）

観光商工サイドの面から答弁をいたします。

まず、市内の機運醸成ということでございますが、観光ビジネスで市内、嬉野市を訪れていただく方に、また来たいと感じていただけるような仕組みを取り組んでいきたいということで考えております。事業者や市民の方が自ら取り組んでいただくことが重要と考えておりますので、このたびの第1号肉付補正で提案させていただきました事業をフルに活用して、何とか取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。

ゴールデンウィーク明け辺りからいろいろと考えていらっしゃっていて、本当に楽しいイベントがたくさんあるんでしょうけど、開業までに様々なイベントがあるということは分かるんですけど、あまり勘違いしたくないのが9月23日が到着地点じゃなくて、これが出発地点ということですよ。開業してからが本当の勝負ということになってくると思うんですけど、ただ、新幹線が来る来るといってお祭り騒ぎだけじゃなくて、開業してから乗り降りをしていただかなければいけない、この仕掛けが必要になってくるというところで、そのようなロビー活動というか、そういったことが今なされているのか、そこをお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

この開業後の取組こそが私も大事だというふうに思っております。観光の面でいけば、こうした新幹線で長崎市街地から25分の距離を生かした長崎の市街地の周遊観光を絡めた、嬉野温泉宿泊を絡めたこうした旅行商品の造成についても、旅行代理店等々にも営業をかけていく。これはインバウンドも止まってしまいましたけれども、インバウンド系の旅行者につ

いても、以前よりそういった提案も行ってきた経緯もございます。また、通勤・通学、また、定住というところであれば、新幹線の通勤・通学を支援していくということも先日の議員の質問からも、そういったことも前向きに考えたいという旨の答弁を差し上げましたけれども、そういったところの制度設計、また、ステーションセールスといいますか、駅利用を呼びかけていく周辺の佐世保市、東彼3町、そういったところへの営業もこれからやはりやっていかなければいけないことだろうというふうに思っております。何より運行されますJR九州に対しても、また、新大阪直通を見据えてJR西日本につきましても、近日、そういったところでいろいろな意見交換、これからのことについても協議をしたいということで要請をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

そうなんですよね。今後、本当に開業してからが一番大事なことであって、もうある程度仕掛けがしてあるのかなと思っていたんですけど、今後、しっかりとしていただきたい。

例えば、長崎県民対象、まだフルでつながっていないので、それこそ向こうまで長崎県民対象とした、新幹線で来られたら、宿泊されるお客さんにクーポンとか、何かそういったことも含めて、いろんなことが考えられると思うんですよ。これは逆に片方だけじゃなく、JRとか、それこそ長崎、諫早、大村、ここら辺も含めてですけど、仕組みづくりというものを、ここら辺と連携してやっていくというもの、こと、また、そういう協議会というものがあるとすれば、そういうところで提案とかということができるとかできないのか。そして、ぜひしていただきたい、そういうことは。そこら辺、何かお考えがあれば、お伺いします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

そういった水面下での取組というものは、もう既に動き出してはいるところもございまして、あとダイヤとか運賃に関しましては開業前の、本当に直前にしか決定をしないという事情もありますので、そういったところが決まってくれば、皆さんにも見える形で出てくるのではないかとこのように思いますので、これは9月議会では間に合わないでしょうから、6月議会で幾分か出てくるものだろうというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

分かりました。

嬉野で降りていただく、乗っていただく。これは絶対的な理由というのが必要じゃないですか。そのきっかけとして、まずは乗っていただくということが必要で、新幹線ってこんなに速くて、こんなに快適でという、何かこんなに便利なんだと思っていただくこと、これが一番必要だと思うので、その呼び水としての仕掛けというものをしっかりと、できるだけ多くのお客様に利用していただくようお願いしたいと思っております。

それでは、次の2番、この質問ですが、意外と答えにくいんだろうなと思いつつ上げておりますけど、以前は全くメディアとかなんとかは正しい情報を取り上げてくれなかったという現状があったんですけど、新幹線の整備方式に関してです。

これは我が市においても、そして、我々嬉野市議会としても、フル規格、フル規格と訴え続けてきたおかげで、ようやく国、県が協議を始めたというところまで来ています。やっとマスコミもいろいろと、ちゃんとした数字を載せるようになってきたという状況がございます。そういう現況ではありますけど、依然平行線のままでしょうけど、話としてはですね、協議としては。そのような中で市長、これは市として、今後とも、力強くフル規格推進という立場を県内外に訴えていくことには変わりはないでしょうか、そこをお伺いします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

嬉野市としても、このフリーゲージトレインの開発が難しいというところから、こうした部分開業のところをフルで整備するということが決まって以来、市として、この関西直通というのが、やはりそれはフリーゲージのときも変わらないわけですけど、関西直通を実現し得る手段、整備方式を求めてきた中で、現時点で唯一それができるのはフル規格による整備であるということを鑑みて、フル規格での整備を求めるということを一貫して主張してまいりました。今後も、それは変わらないわけでありまして、また、一部にはこうした高速鉄道網とつながることへの懐疑的な見方、また、いろんな見方が、費用対効果の論点とかも上がっておりますけれども、この部分開業でしっかりと嬉野市として新幹線とつながった効果、そしてまた、まちづくりを成功に導くことで県民世論、また国民世論を変えていくぐらいの気概を持って取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

安心しました。いろいろと県との兼ね合いもあるでしょうし、これ以上は申しませんが、西九州は一つ、九州は一つという視点から、これは九州全体の活性化に寄与することにもなりますし、また、それにより九州以外からの民間の活力を注ぎ込むこと、これが必要であるとも考えております。そういう中で、今後、フル規格推進の旗頭として声を上げていただきたい、それが大きな願いでございます。よろしくお願い申し上げます。

さて、次に最後の質問になります。

昨年の豪雨災害についてということで上げておりますけど、これもたくさんの議員さんたちより質問がございましたので、取り下げようかなと思いましたが、大変申し訳ないですが、大事なことでありますので、もう一度、不動山大舟地区、大草野南下地区の現況及び今後の計画についてお伺いするのと、あと、併せて2番の上記以外でも今後大雨が降れば、人命に被害が及ぶのではないかとということで、そういう被災箇所がございます。市としてどのように捉えて復旧を進めていくのか、併せてお伺いしたいと思います。

○議長（辻 浩一君）

建設課長。

○建設課長（馬場孝宏君）

お答えいたします。

私のほうからは工事の整備の進捗ということでお答えをさせていただきます。

大舟地区、南下地区の現在の進捗ですが、今現在、地質調査、地形測量、それと対策工法の検討ですね、こちらのほうを同時に進められているところでございます。恐らく長くしないうちに工法は決まってくるかと思いますが、工法が決まり次第、速やかに工事ができるように発注準備のほうもやっていくということでお伺いはしているところでございます。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

ほかの議員さんたちからも質問もございましたし、その旨説明は地元住民の方々にはしてあるということでもいいんでしょうね。

○議長（辻 浩一君）

建設課長。

○建設課長（馬場孝宏君）

お答えいたします。

そうですね、県のほうから昨年12月に地滑り事業の現地立入りという形で回覧が回っております。一応説明会ではないんですが、こういう形で調査のお願いをした文言の中に、対策工法等が決定すれば、説明会をさせていただいて、その後、工事のほうに着手するというふ

うなことになってくるかというふうなことで考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

いろいろと、この災害地域の件に関しましては、発注をしたとか、発注をしていないとか、そういったこともあって、ある程度のそういったことは分かるんですね。私、これ1点だけすごく重要なことが抜けているんじゃないか、抜けているというか、ありまして、要は被災地じゃないですか、の皆さん方というのは、日常の生活、雨が降ったときとかもそうですけど、日常の生活が不安で不安でしょうがないのがまず一番なんです。年末回っていて、市長思わなかったですか。選挙のときもそうですけど、年末も回っていて思ったのが、これは県の土木事務所の説明とか、あと市の説明、これはやったのは分かるんですよ。これで安心するかといったら安心しないんですよ。説明しています、それこそまた動いたら説明します、これは分かるんですけど、これじゃなかなか被災をしている方々というのは安心しないと思うんですよ。集落の中でもいろいろあるじゃないですか、ここは全壊している、ここは全壊していない、うちのほうが被害はひどいのにとかというのでいろいろと集落の中でも、あそこは解体で何でこっちはできていないんだろうと、そこでいろいろとまたごちゃごちゃめごともあるんですよ。こういったことも含めて、全体の説明会とかで聞いたり行ったりできない人たちってたくさんいるわけですよ。そのような中、集落の中で疑心暗鬼になったりとかして、生活している方々の声が聞こえないというのがあって、こういったものを拾えないかなと思うわけですよ。要は、心理的ケアというものがここには必要だったんじゃないかなと思うんですけど、そこに関して市長、御答弁をお願いします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

私自身もこうした被災箇所につきましては、今回の予算で、本予算でお願いをいたしました情報共有システムに上げられたところは全部、防災服を来て回りました。そこで少しどうにもならない気持ちをぶつけられたこともあります。それはそういう気持ちとしては分らないではないですから、ただ、できることというのは、その場でひたすら頭を下げるしかないだろうということだったので、それはしっかりと受け止めますからということで対応させていただきました。その中でも、確かに同じ被災をされたところでも、いろいろと区長さんのリーダーシップの下で情報共有を図っていただいているところであれば、割と皆さんも、こちらから説明するまでもなく、理解をしていただいている、不安は不安だけど、こういうこ

とだろうとあって、ああ、そうですということで終わるんですけども、集落によっては昼間と夜の時間帯でなかなか区長さんとのコミュニケーションとか、また、いろんな集落同士のコミュニケーションというのが希薄な地域においては、そういった情動的なところでの孤独感、孤立感を感じていらっしゃる方もいらっしゃるって、そういった方がやはり強く不満を感じられて、工事業者に対しても、少しつらく当たったりとかするようなことも聞いております。ただ、それはやはり私たちが何もなければ情報提供するよということ、担当課を通じて言っておりますので、これからは何もなければ、そういったケア、そういったことはしていく必要はあるのかなというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

大変なのは分かるんですよ、そういったこともね、それこそ、そこまで面倒見なきゃいけないのかと思うところもあるんですよ、実際に。ただ、やっぱり私が頼みたかったのは、地域に出向いていく、被災地域に出向いていく。こういったことが週に1回、別に遊びに行くだけでもいいんですよ。特別説明しに行けと言っているわけではないんですよ。その地域を回って、大丈夫ですか、元気ですかと言うだけでもいいんですよ。そういったことだけなんです。それだけでも向こうから多分どんどん話も出てくると思うので、そういう日を月に1日、2日でも、それこそ行く担当の人間なんかを決めて、行ってちょっと話聞いてこようみたいな感じでもいいんですよ。そういったことができないかなと思っておりまして、そういう相談できる体制——体制というとあれだけど、そういったものがフランクに、気軽に相談できるような形ができないかなと思いつつ、今回このような質問をさせていただきました。

あと数か月もすれば、また雨季に入るわけじゃないですか。避難所等のスムーズな運営等にもまた地元の人たちがそういう状況だと役に立つことがありますし、また、運営自体うまくいくことになると思いますので、ここに関しても、ぜひ役に立つかと思っておりますので、寄り添うことを大事に、市長、ここら辺は最終的には市長の信頼というものにもつながっていくかと思っておりますので、ぜひぜひここら辺よろしくお願ひしたいと思っておりますけど、市長、最後に答弁をお願いします。

○議長（辻 浩一君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

出穂期を前に、そういったところを改めてしていく必要があるだろうというふうに思っ

います。新型コロナウイルスも蔓延防止が解けてきたということもありますので、今後、そこは厳しいお言葉も含めて受け止める必要はあるというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

それでは、ここで終わりたいんですけど、最後に、これまで職員として、また、副市長としてしっかりと長年この嬉野のために全力を尽くしていただきました、尽力いただきました副市長に最後ちょっと質問をさせていただきたいと思うんですけど、それこそ総務の部長もやられて、今回、ここ数年、それこそ大規模な災害というものに立ち向かわれてこられたわけじゃないですか。こういう中で、今までも塩田のときからずっと経験されているこの経験の中で、防災というもの、これに対して副市長にとって大事なことで、これをちょっと簡単ではございますが、一言でお願いしたいと思っておりますけど、そこら辺よろしくをお願いします。

○議長（辻 浩一君）

副市長。

○副市長（池田英信君）

お答えをいたします。

なかなか的確な答弁になっているかどうかは分かりませんが、私が思うのは、例えば、災害時に市民の方が避難しないというのは正常バイパスが働いて避難しないというふうに使われています。組織の中でも、非常事態だという意識がなければ、これはよく言われるんですけども、通常業務を通常どおりしてしまう組織があると、片方では。そういったことをやっぱり払拭するために危機管理意識、それから、危機なんだという意識を組織で共有できるようなことが一番大事なんだろうというふうに思います。

本当に危機管理を共有する、職員が本当にここは今一番大事なんだというものができるといえる体制をつくるのが重要なことというふうに思います。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

ありがとうございます。大切な訓示をいただきました。ありがとうございます。

それでは、これで私の一般質問を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○議長（辻 浩一君）

これで宮崎良平議員の一般質問を終わります。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

午後 3 時36分 散会